山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第23集

K-742

南志田遺跡
発掘調査報告書

2005

東南タクシー株式会社
山形市教育委員会

山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第23集　南志田遺跡発掘調査報告書　正誤表

頁	行(位置)	誤	正
例言	31	東北芸術工科大学保存科学センター	東北芸術工科大学保存修復センター
81	遺物番号41・遺構番号欄	SI7	SI71
85	遺物番号148・挿図欄	(空欄)	40
85	遺物番号148・図版欄	(空欄)	14
88	遺物番号220・挿図欄	55	57

南志田（みなみしだ）遺跡
発掘調査報告書

平成17年3月

東南タクシー株式会社
山形市教育委員会

序

本書は、平成14・15年度に実施した民間宅地造成事業に伴う南志田遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。

南志田遺跡は、平成14年度に事業に先立ち実施した分布調査により新規に発見された遺跡です。調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡を主体とした集落跡が確認されました。

山形市は、山形盆地の南部に位置し、馬見ヶ崎川や蔵王連峰など水と緑に恵まれた自然豊かな環境にあります。東の奥羽山脈には、平安時代以降、慈覚大師の開基と伝わる国指定名勝・史跡「山寺」が所在し、市内の中心部には戦国武将最上義光の居城であった国指定史跡「山形城跡」が所在するなど、山形県内はもとより、東北の中心的地域として古くから栄えてきました。

市内には、国指定史跡「嶋遺跡」など、埋蔵文化財と呼ばれる地中に埋もれた文化財が300箇所以上確認されております。これらの文化財は、郷土の歴史や文化を理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において住民福祉の向上を目的とした各種社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、国指定史跡「山形城跡」などの保存や整備を目的とした発掘調査も継続されているところです。

本書が、埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

山形市教育委員会
教育長　大場　登

例　言

1　本書は、民間宅地造成事業に係る「南志田遺跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は、東南タクシー株式会社の依頼により、山形市教育委員会が実施した。

3　調査要項は下記の通りである。

遺　跡　名　南志田遺跡（みなみしだいせき）
所　在　地　山形市大字漆山字南志田・大壇
遺跡番号　平成14年度新規発見
現地調査　平成15年2月27日～平成15年5月2日
整理作業　平成16年2月2日～平成16年5月31日
調査面積　2,700㎡
調査主体　東南タクシー株式会社
調査実施機関　山形市教育委員会
調査担当者　社会教育課　課　長　柳橋幸男（平成14年度）
　伊藤邦男（平成15・16年度）
　課長補佐　江川　隆
　文化財保護係長　小野　徹
　主　事　國井　修（調査主任）
　主　事　植松　薫
　主　事　須藤英之
　臨時職員　高橋　拓

4　本書の作成・執筆は、國井修が担当した。

5　発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては以下の方々からご協力をいただいた。記して感謝申しあげる。
（敬称略）

荒井治良　石垣勝幸　伊藤省三　伊藤真喜子　大津弘　大貫文義　小笠原吉二　小川定雄　柿崎繁　柏谷和夫
木村澄子　熊谷侃　栗原清子　栗原武夫　笹利幸　佐藤昭司　佐藤博　三部秋夫　志田英信　白田敬　鈴木清志
鈴木輝男　関口幸子　武田武　丹野ヒデ子　堤操　戸田長生　富沢啓広　長岡伸恭　中村遠久　藤井富士夫
保科源則　渡辺ふじえ(以上現地調査)
伊藤桂子　伊藤真喜子　金子みつの　関口幸子　中沢林子　原田とし子　平井あや子　深瀬美貴子(以上遺物整理)
地崎工業株式会社　手代木美穂（東北芸術工科大学）　米村祥央（東北芸術工科大学）

6　委託業務は下記の通りである。

空中写真撮影・平面図化　アジア航測株式会社
金属製品保存処理　東北芸術工科大学保存科学センター

7 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会で一括保管している。

凡　例

1 本書で使用した遺構の分類記号は以下の通りである。
SI：竪穴住居跡　SD：溝跡・溝状遺構　SK：土坑・墓坑　SP：不明ピット
2 本書で使用した地形図等は以下の通りである・
第1図　国土地理院発行1：50,000地形図『楯岡』『山形』　NJ-54-21-11・12
第2図　山形市発行1：2,500国土基本図　X-QC　29-2（山形広域都市計画図「天童大橋」）
第3図　国土地理院発行1：50,000地形図『楯岡』『山形』　NJ-54-21-11・12
山形県発行1：50,000地形分類図『楯岡』『山形』
第4図　国土地理院発行1：50,000地形図『楯岡』『山形』　NJ-54-21-11・12
山形県発行1：50,000表層地質図『楯岡』『山形』
3 遺構番号は現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
4 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。
5 グリッドの南北軸は、N-20° 45′ 14″ -Eを測る。
6 遺構実測図は、1/40・1/80・1/400の縮図で採録し、各々スケールを付した。
7 遺構実測図中の水糸レベルは標高を表す。単位はmである。
8 土層観察において、遺跡を覆う基本層序については、ローマ数字を、遺構覆土については
アラビア数字で表している。
9 遺物実測図は1/3・1/4の縮図で採録し、各々スケールを付した。
10 遺物実測図中の土器において、断面白抜きが土師器、黒ベタが須恵器、網掛けが赤焼土器を表す。
また、内面の黒色ミガキを網掛けで、黒色処理を伴わないミガキにはさらに★印を付している。
11 遺構計測表中における計測値の単位はcmを使用している。
12 遺物観察表中の計測値において、（）内数値は図上復元による推計値を、空欄は計測不能を示す。
単位はmmを使用している。
13 遺構・遺物番号は、本文、表、挿図、写真図版とも一致している。
14 基本層序及び遺構覆土の色調記載については、『新版土色帳』（小山・竹原：1973）に拠った。

目　次

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過……1

2　調査の方法と経過……1

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境……2

2　歴史的環境……2

Ⅲ　検出された遺構と遺物

1　遺跡の層序……11

2　遺構の分布……11

3　遺物の分類……15

4　竪穴住居跡……23

SI7a竪穴住居跡……23
SI7b竪穴住居跡……23
SI7c竪穴住居跡……23
SI63竪穴住居跡……23
SI81竪穴住居跡……26
SI82竪穴住居跡……29
SI64竪穴住居跡……29
SI85竪穴住居跡……29
SI27竪穴住居跡……29
SI71竪穴住居跡……37
SI74竪穴住居跡……37
SI86竪穴住居跡……37
SI14竪穴住居跡……37
SI18竪穴住居跡……40
SI49竪穴住居跡……41
SI50竪穴住居跡……48
SI77竪穴住居跡……51
SI78竪穴住居跡……51
SI79竪穴住居跡……57
SI80竪穴住居跡……57
SI87竪穴住居跡……59
SI89a竪穴住居跡……59
SI89b竪穴住居跡……59
SI89c竪穴住居跡……59
SI89d竪穴住居跡……69
SI21竪穴住居跡……59
SI73竪穴住居跡……61
SI83竪穴住居跡……62
SI91a竪穴住居跡……62
SI91b竪穴住居跡……65
SI69竪穴住居跡……65

5　その他の遺構及び遺構外出土遺物……70

SK30土坑……70
SK22土坑……70
遺構外出土遺物……71

Ⅳ　総括

1　竪穴住居跡の規模・形態と遺物の出土傾向……91

2　出土遺物の様相……92
3　調査の成果……94

参考文献……99
報告書抄録……100

表

表1　遺跡地名表……5
表2　遺物分類表……16
表3　土層注記……74
表4　竪穴住居跡観察表……77
表5　遺物観察表……80
表6　竪穴住居跡別遺物出土傾向表……89・90
表7　時期別遺物出土傾向表……95・96

挿　図

第1図　遺跡位置図……4
第2図　調査概要図……8
第3図　地形分類図……9
第4図　表層地質図……10
第5図　基本層序柱状図……12
第6図　遺構配置図……13・14
第7図　平面図内での出土遺物の表現……15
第8図　器形分類図（1）……18
第9図　器形分類図（2）……19
第10図　部位分類図……20
第11図　坏類の口高指数と外傾度・
　口径と器高……21
第12図　土器の計測基準・調整技法の表現…22
第13図　SI7竪穴住居跡平面図……24
第14図　SI7竪穴住居跡遺物出土位置図……25
第15図　SI7竪穴住居跡出土遺物……26
第16図　SI63竪穴住居跡平面図・
　遺物出土位置図・出土遺物……27
第17図　SI81竪穴住居跡平面図・
　遺物出土位置図・出土遺物……28
第18図　SI82竪穴住居跡平面図・出土遺物…30
第19図　SI64竪穴住居跡平面図・
　遺物出土位置図・出土遺物……31
第20図　SI85竪穴住居跡平面図・
　遺物出土位置図……32
第21図　SI85竪穴住居跡出土遺物……33
第22図　SI27竪穴住居跡平面図……34
第23図　SI27竪穴住居跡遺物出土位置図…35
第24図　SI27竪穴住居跡出土遺物……36
第25図　SI71竪穴住居跡平面図・
　遺物出土位置図・出土遺物……38
第26図　SI74竪穴住居跡平面図・
　遺物出土位置図……39
第27図　SI74竪穴住居跡出土遺物……40
第28図　SI86竪穴住居跡平面図・
　遺物出土位置図・出土遺物……41
第29図　SI14竪穴住居跡平面図……42

第30図　SI14竪穴住居跡遺物出土位置図
……43・44
第31図　SI14竪穴住居跡出土遺物（1）……45
第32図　SI14竪穴住居跡出土遺物（2）……46
第33図　SI14竪穴住居跡出土遺物（3）……47
第34図　SI18竪穴住居跡平面図……48
第35図　SI18竪穴住居跡遺物出土位置図……49
第36図　SI18竪穴住居跡出土遺物（1）……50
第37図　SI18竪穴住居跡出土遺物（2）……51
第38図　SI49・50竪穴住居跡平面図……52
第39図　SI49・50竪穴住居跡遺物出土位置図‥53
第40図　SI49・50竪穴住居跡出土遺物（1）‥54
第41図　SI49・50竪穴住居跡出土遺物（2）‥55
第42図　SI77竪穴住居跡平面図・
遺物出土位置図……56
第43図　SI77竪穴住居跡出土遺物……57
第44図　SI78竪穴住居跡平面図・
遺物出土位置図・出土遺物……58
第45図　SI79・80竪穴住居跡平面図・
遺物出土位置図……60
第46図　SI79・80竪穴住居跡出土遺物……61
第47図　SI87竪穴住居跡平面図・出土遺物‥62
第48図　SI89竪穴住居跡平面図・
遺物出土位置図……63
第49図　SI89竪穴住居跡出土遺物……64
第50図　SI21竪穴住居跡平面図……65
第51図　SI21竪穴住居跡遺物出土位置図・
出土遺物……66
第52図　SI73竪穴住居跡平面図・
遺物出土位置図・出土遺物……67
第53図　SI83竪穴住居跡平面図・
遺物出土位置図・出土遺物……68
第54図　SI91竪穴住居跡平面図・
遺物出土位置図……69
第55図　SI91竪穴住居跡出土遺物……70
第56図　SI69竪穴住居跡平面図……71
第57図　SI69竪穴住居跡出土遺物……72
第58図　SK30・22土坑平面図・出土遺物‥73
第59図　遺構外出土遺物……74
第60図　土器集成図……97・98

図　版

図版1　調査区全景
図版2　SI7a・7b・7c・14・18・21・27・49
・50・63・64竪穴住居跡
図版3　SI69・71・73・77・78・79・80・81
竪穴住居跡
図版4　SI82・83・85・86・89・91竪穴住居跡
・SK22・30土坑
図版5　SI7・63・64・81・82・85出土遺物
図版6　SI27・64・71・85出土遺物
図版7　SI14・71・74・86出土遺物
図版8　SI14出土遺物
図版9　SI14・18出土遺物
図版10　SI18・49・50出土遺物
図版11　SI50・77出土遺物
図版12　SI21・73・78・79・87・89a・89b・89c
出土遺物
図版13　SI21・69・73・83・91a・91b出土遺物
図版14　SI14・18・49・69・74・77・78・79・
91b・SK30・22・遺構外出土遺物

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

今回の調査は民間宅地造成事業に係り調査が実施されたものである。事業に先立ち事業主体である東南タクシー株式会社代表取締役田谷貞義より、平成14年11月5日付けで、事業地内の埋蔵文化財の有無について照会があった。事業地内はこれまで埋蔵文化財の所在が未確認の区域であったため、本市教育委員会では平成14年11月19日～21日の延べ三日間試掘調査を実施し、その有無の確認を行った。試掘調査では、事業計画図を基に9本の試掘坑を設定した後、重機により表土を除去し、遺構及び遺物の確認を行った。その結果、平安期の多数の竪穴住居跡とそれに伴う遺物が出土したことから、平成14年11月28日付け（教）社第384号にて文化財保護法に基づく届出を行い、周知の遺跡として登録された。これらの経緯を踏まえ、関係機関で遺跡の取扱いについて協議を行った結果、遺跡の破壊が免れない街区道路部分について、工事に先立ち緊急発掘調査を実施することで合意を得た。調査に関する合意事項について、平成15年2月26日付けで、東南タクシー株式会社と本市教育委員会とで協定を締結し、平成15年2月27日～5月2日まで現地における発掘調査を実施した。

現地調査終了後、整理作業について改めて両者で協議を行い、平成16年2月1日付けで整理作業に関する協定を締結し、平成16年2月2日から5月30日の延べ118日間整理作業を実施した。

2　調査の方法と経過

発掘調査は、平成15年2月27日から5月2日の延べ64日間実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。ただし、調査区域の一部で果樹園として使用されている部分については、果樹の撤去後に表土を除去することとした。

遺構の検出作業は、3月4日より開始した。その結果、２０棟以上の竪穴住居跡と東西及び南北に伸びる溝跡の他、土坑、不明ピットなどが確認された。また、調査区中央部（G･H－9･10グリッド）付近で比較的良好な遺物の包含層を確認した。その後、調査区内に任意に5ｍメッシュの方眼区域を設定し、遺構検出作業と並行して、遺構検出状況図の作成を行った。

遺構精査は、3月13日より開始した。竪穴住居跡については、住居跡の壁面を基準に堆積土観察用のベルトを設定し、掘り下げを行った。また出土遺物については破片単位で出土地点を記録して取り上げた。その他の遺構については、任意に堆積土観察用のベルトを設定し、溝跡については、グリッド単位で、その他については遺構単位で遺物を取り上げた。

これらの作業と並行して随時写真・図面等の諸記録作業を行い、4月28日に空中写真測量を実施した。その後、一部の遺構について補足的な記録作業を実施し、５月２日に現場における全作業工程を終了した。また、4月25日には山形市立出羽小学校6年生の遺跡見学を実施し、６７名の児童の参加を得た。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

山形市は、山形県の中部東側、山形県を貫流する最上川の流域に並ぶ盆地列のひとつである山形盆地南半に位置する。東側は奥羽脊梁山地に属する蔵王及び面白山山地の西面を、西側は白鷹山地の一部を含んでいる。総面積は約382平方kmで、市域の約7割が山地及び丘陵地地帯となっている。市域の最高点は、蔵王熊野岳（標高1840.5m）で、最低点は、市域北西端の大字中野目（標高約92m）である。

市域は、大きく奥羽山脈地域、山形盆地地域、白鷹山地（西部丘陵）地域の３つの地域に区分することができる。

山形盆地域は、東側を市南東部より北流する馬見ヶ崎川及び市北東部の二口峠付近より西流する立谷川の形成した扇状地で占められている。西部及び北西部では、南蔵王に源を発し市南西部から北流する須川と白川（馬見ヶ崎川下流）の沿岸に氾濫原が広がり低地帯を形成している。この低地帯には、これら河川沿いに広がる自然堤防及び後背湿地の他、その旧流路に起因する自然堤防が点在している。また上記の河川は市域北西端部大字中野目付近で合流し、最上川へと入る。

奥羽山地域は南端の熊野岳から北端の面白山に至るまで第四紀に形成された火山性の地形が連なっている。蔵王西麓から須川に至る台地では第四紀の火山活動により火山泥流に覆われており、小池沼を伴っている。

白鷹山地域は、本市域については、上山市に続く隔間場の丘陵地からはじまり、旧白鷹火山火口壁の高森山を通って、荒沼湖岸から山地西端の山形盆地に向う斜面を含んでいる。

南志田遺跡は、上記の区分では、山形盆地域にあたり、本市北東部、立谷川左岸、同河川の形成する扇状地の扇端部に位置する。この立谷川扇状地は、奥羽山脈から西流する立谷川と村山高瀬川により形成された扇状地で、扇頂部が山形市地蔵堂付近（標高220m）で扇端部は天童市八幡山から山形市漆山に至る弧状を成している。南側ほど扇面が延び、半径約6kmを測る。本遺跡付近では、北東（立谷川側）から南西にかけて緩やかに傾斜し、標高約１１８ｍを測る。調査時の地目は果樹園である。遺跡周辺は、果樹園の他、大部分が宅地となっており、水田はほとんど見当たらない。また、本遺跡西側、JR奥羽本線西側には羽州街道が北進し、東部の丘陵沿いから立谷川に沿って二口街道が東進する。

2　歴史的環境

本遺跡付近は、山形市内でも、遺跡の密度が非常に高い地域にあたる。奥羽山地と立谷川扇状地の傾斜変換点付近、立谷川沿岸及び扇状地扇端部付近には縄文時代から近世までの多くの遺跡が確認されている。

縄文時代では、立谷川沿岸、奥羽山地と立谷川扇状地との傾斜変換点、立谷川扇状地先端部に遺跡の所在が確認されている。立谷川沿岸に分布する遺跡としては、大森A遺跡（前期中葉　169）、上荒

谷遺跡（前期中葉　157）、中地蔵（中期　168）などがある。概ね前期から中期の遺跡が主体となる。奥羽山地と立谷川扇状地との傾斜変換点付近では、伝覚平遺跡（中期　164）、南山遺跡（中期　166）及び石転山遺跡（中期　165）などの中期後葉から末葉を主体とする遺跡群と、大森B（後期～晩期172）及び宮田遺跡（晩期　163）といった晩期を主体とする遺跡の分布が認められる。立谷川扇状地扇端部付近では、一ノ坪遺跡（晩期　178）、北柳1（晩期終末～弥生　198）など、概ね晩期の遺跡が主体となる。

弥生時代では、山地と扇状地の傾斜変換点、扇状地扇端部に遺跡の所在が確認され、縄文時代晩期の遺跡とほぼ同様の分布域を示す。前者では、お花山遺跡（後期　211）、後者では、上記の北柳1遺跡の他、北道上A遺跡（後期　184）、七浦遺跡（後期　192）、南川原遺跡（後期　190）等があり、おおむね後期（桜井式期）の遺跡が主体となっている。

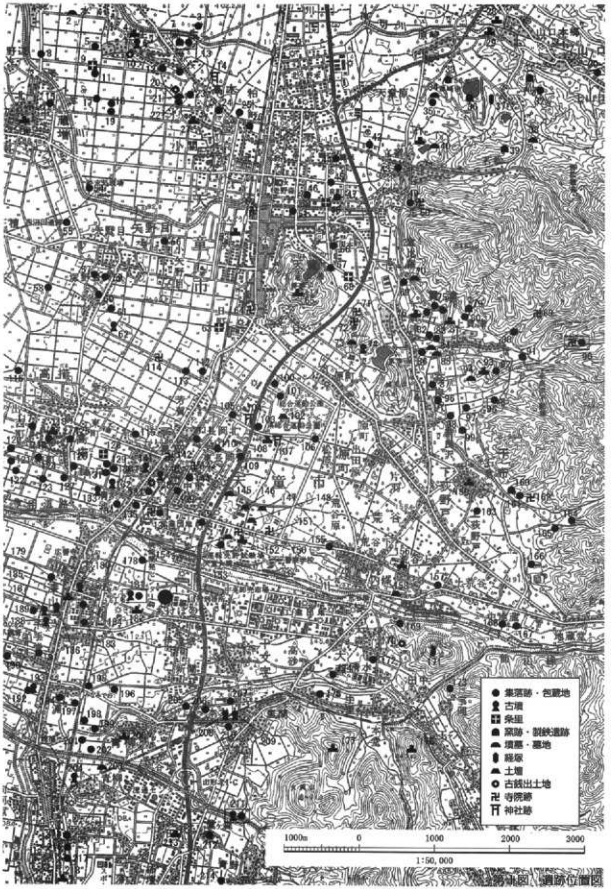
古墳時代では、山地付近の小丘陵や扇状地扇端部に古墳群が多数確認されている。前者では、お花山古墳群（211）、後者では衛守塚古墳群（186～188）、七浦（狐山）古墳群（193）などがある。また集落跡では、扇状地扇端部に前期を主体とするものの分布が認められる。

奈良・平安時代では、扇状地扇端部付近及び平野部の自然堤防上に多数の集落跡が認められ、特に市内では確認例が少ない8世紀中葉や10世紀代の集落跡が確認されている。また、本遺跡の北部の奥羽山地西麓には、多数の窯跡が確認されている。

中世以降になると、旧街道沿いや河川沿岸、河川あるいは平野部に面した山地に城館跡が確認されている。なかでも本遺跡西方約1kmに位置する漆山館（185）は、最上満直の子、満頼の城館であるとの伝承が残る。また、立谷川沿岸には、塚や土壇が所在し、さらに本遺跡東方の大森山には大森山古銭出土地（171）、山形大森山経塚（172）といった信仰関連遺跡が所在している。これら遺跡は立谷川上流に位置する立石寺（860年開基）との関係が示唆されている。

近世では、弘化三（1846）年、当時山形藩主であった秋元氏が、山形城を引き上げるにあたり、陣屋を設置している。

本遺跡付近には、西側に梅ノ木遺跡（181）、北西に一ノ坪遺跡、南西に伊達城（182）が所在している。梅ノ木遺跡は平成11年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターが緊急発掘調査を実施している。調査では古墳時代中期・後期の円墳、８世紀前半の竪穴住居や8世紀後葉から９世紀前葉の掘立柱建物跡群が確認されている。一ノ坪遺跡は、平成11年度に財団法人山形県埋蔵文化財センターが、平成12年度に山武考古学研究所（山形市教育委員会調査委託）が調査を実施している。調査では、縄文時代晩期末の遺物、古墳時代前期・後期の竪穴住居跡、８世紀から10世紀の竪穴住居や掘立柱建物跡群が確認されている。これら古墳時代から平安時代の集落跡は、本遺跡の年代とほぼ一致している。伊達城はこれまで本格的な調査は実施されていないが、付近に残る十文字などの地名から交通の要衝に構えられた城郭と推定される。


集落跡・包蔵地
古墳
条里
窯跡・製鉄遺跡
墳墓・墓地
経塚
土塘
古銭出土地
寺院跡
神社跡
1000m　0　1000　2000　3000
1:50,000

第1図　遺跡位置図

表1　遺跡地名表（1）

No.	遺跡名（別称・旧称）	県遺跡番号 （中世城館遺跡番号） ［天童市遺跡番号］	時　期	種　別
1	南志田	H14新規	古墳/奈良・平安	集落跡
2	一乗壇	300［70］	中世	墳墓
3	鮭野堂前	297［67］	縄文（中期）	散布地
4	成生橋	294（210-003）［64］	中世	城館跡
5	的場	295［65］	平安	集落跡
6	成生古墳群	293［63］	古墳	古墳
7	金谷	296［66］	縄文/平安	散布地/製鉄遺跡
8	蔵増北B	283［53］	平安	集落跡
9	三条条里	H7新規［170］	奈良・平安	条里
10	成生古銭出土地	H7新規［173］	中世	古銭出土地
11	坂堀2	H9新規	古墳/奈良・平安/中世	集落跡
12	地蔵池B	290［60］	平安	集落跡
13	地蔵池A	289［59］	縄文（晩期）/弥生（中期）	集落跡
14	高木石鳥居	H7新規［171］	中世	鳥居
15	蔵増北A	282［52］	中世	集落跡
16	蔵増城	281（210-008）［51］	中世	城館跡
17	坂橋1	H9新規	縄文/古墳/奈良・平安/中世	集落跡
18	清滝清水	291［61］	古墳（後期）	集落跡
19	八反記田	292［62］	縄文（後期）	集落跡
20	高木古銭出土地	287［57］	中世	古銭出土地
21	高木石田墳墓	286［56］	中世	墳墓
22	高木石田	285［55］	縄文（後期・晩期）/平安	集落跡
23	高木原口	288［58］	古墳（中期）/平安	集落跡
24	北畑	302［72］	平安	集落跡
25	押切	H11新規［168］	平安	集落跡
26	柏木	274［44］	縄文（前期）	集落跡
27	高木館	H7新規（210-002）［172］	中世	城館跡
28	下山口館	H7新規（210-005）［188］	中世	城館跡
29	浅間館	H7新規（210-006）［183］	中世	城館跡
30	上北	H7新規［184］	縄文	集落跡
31	瀬戸山古窯	332［102］	平安	窯跡
32	悠然坊	H7新規	平安	集落跡
33	杉の木山	330［100］	縄文	集落跡
34	田谷墳墓	329［99］	中世	墳墓
35	田谷	H7新規［178］	縄文	集落跡
36	京姫古窯群	331［101］	平安	窯跡
37	経塚山	H7新規［185］	中世	経塚
38	若松墳墓（若松後山墳墓・遺郷塚）	328［98］	中世	墳墓
39	二子沢窯跡群	333［103］	平安	窯跡
40	山居墳墓群	326［96］	中世	墳墓
41	小山家城	325（210-007）［95］	中世	城館跡
42	光戒塹	327［97］	平安	集落跡
43	山元	324［94］	平安	集落跡
44	鞭塚	275［45］	縄文（晩期）	集落跡
45	鍋掛B	273［43］	縄文（晩期）・弥生	集落跡
46	鍋掛A	272［42］	平安	集落跡
47	千刈	320［90］	平安	集落跡
48	千刈条里	321［91］	平安	条里
49	龍沙門寺	322［92］	縄文	集落跡
50	龍沙門寺廃寺	323［93］	平安	寺院跡
51	藤田	319［89］	奈良	集落跡
52	多聞寺	H7新規［164］	近世	寺院跡
53	天童城（天童藏田館）	271（210-012）［41］	近世	城館跡
54	蔵増押切	H9新規	古墳/奈良・平安/中世	集落跡
55	西沼田（沼田B）	344［114］	古墳（後期）	集落跡
56	小矢野目	280［50］	平安	集落跡
57	矢口	278［48］	縄文（晩期）	集落跡
58	阿部屋	H9新規	平安	集落跡
59	沼田	279［49］	縄文（晩期）	集落跡
60	塚野目A	276［46］	弥生（後期）/古墳（前期）/平安	集落跡
61	塚野目B	277［47］	平安	集落跡
62	塚野目古墳群	H7新規［166］	奈良	古墳
63	五反田条里	H7新規［159］	平安	条里
64	自性院	H7新規［161］	近世	寺院跡
65	天童古城（舞鶴山城）	270（210-013）［40］	中世	城館跡

表1　遺跡地名表（2）

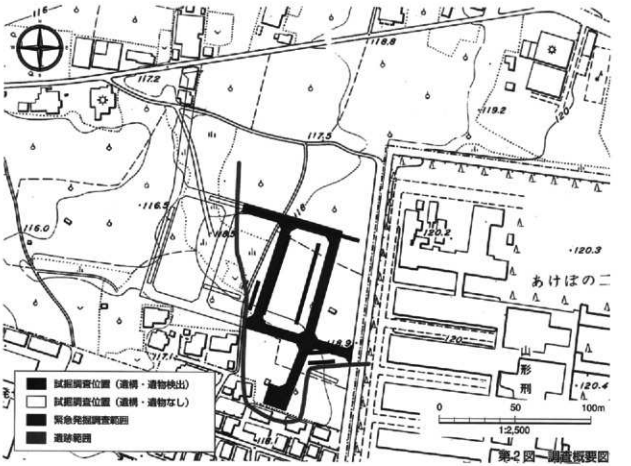
No.	遺跡名（別称・旧称）	県遺跡番号 （中世城館遺跡番号） ［天童市遺跡番号］	時　期	種　別
66	塚田	306［75］	縄文	集落跡
67	鍛ノ町	304［74］	縄文	集落跡
68	旅ノ町条里	303［73］	平安	条里
69	酒呑	H10新規	縄文/平安	散布地
70	石打場	306［76］	平安	墳墓
71	普行寺	H7新規［156］	中世	寺院跡
72	慈光院	H7新規［153］	中世	寺院跡
73	八幡山墳墓群	269［39］	近世	墳墓
74	八幡山古墳（原町古墳）	268［38］	奈良	古墳
75	山崎C	309［79］	平安	集落跡
76	中島館	H7新規（210-009）［179］	中世	城館跡
77	山崎A・B（中島）	307・308［77・78］	縄文・平安	集落跡
78	山崎D（花毛）	310［80］	縄文	集落跡
79	御阿弥陀堂	313［83］	平安	寺跡
80	土生田	未登載	縄文（中期）	散布地
81	山崎城館	H7新規（210-010）［182］	中世	城館跡
82	小関A（水田）	311・312［81・82］	縄文（中期）/平安	集落跡
83	小関C	新規［176］	縄文/平安	集落跡
84	白山堂1墳墓	264［34］	平安	墳墓
85	白山堂2墳墓	265［35］	平安	墳墓
86	白山堂	266［36］	縄文（晩期）/平安	集落跡
87	長谷川	H10新規	平安	散布地
88	上貫津1	H1新規	平安	散布地
89	大平山	314［84］	平安	寺院跡
90	東願寺廃寺	318［88］	縄文（中期）/平安・中世	散布地/寺院跡
91	新城（上貫津）	317［87］	縄文	集落跡
92	新城山	316［86］	縄文	集落跡
93	新城5（210-011）［85］	中世・近世	城館跡
94	新城山墓地	H7新規［155］	中世	集地
95	庄前4	H10新規	縄文/平安	散布地
96	奈良沢東	267［37］	縄文（晩期）	集落跡
97	庄前3	H10新規	平安	散布地
98	庄前2	H10新規	平安	散布地
99	庄前1	H10新規	縄文	散布地
100	坪岡	S58新規［157］	平安・中世・近世	集落跡
101	滝本	S58新規［163］	平安・中世・近世	集落跡
102	鬼谷原土壌	S58新規［116］	平安・中世・近世	土壌
103	山王	S58新規［127］	平安	集落跡
104	諏訪神社	253［23］	中世	神社跡
105	芳賀古墳群	252［22］	平安・中世	集落跡
106	雨原	S58新規	縄文（中期）/平安	散布地
107	日枝神社	H7新規［142］	中世	神社跡
108	堀の城	H7新規（210-015）［137］	中世	城館跡
109	十二木	H7新規［128］	平安	集落跡
110	桜畏	H7新規［125］	平安	集落跡
111	岡屋敷	H7新規［120］	平安・中世・近世	城館跡
112	頭無	H7新規［122］	平安	集落跡
113	焼失原	H7新規［131］	平安・中世・近世	集落跡
114	慶正寺	H7新規［123］	中世	寺院跡
115	平段	H7新規［143］	縄文/平安	集落跡
116	中袋	H2新規［140］	平安	集落跡
117	高擶西浦	H7新規［133］	縄文	集落跡
118	高擶城	251（210-016）［21］	中世・近世	城館跡
119	西浦	H7新規［141］	縄文	集落跡
120	松葉	H7新規［144］	平安/近世	集落跡
121	昌蒲江1	H10新規	古墳（前期）	集落跡
122	高擶南	249［19］	古墳（中期）	集落跡
123	昌蒲江2	H10新規	縄文/古墳	集落跡
124	高擶南浦	H7新規［135］	縄文/平安	集落跡
125	高擶東浦	H7新規［134］	奈良・平安	集落跡
126	入水	H7新規［119］	奈良・平安	集落跡
127	桜江	H7新規［124］	縄文（後期・晩期）/弥生（後期）	集落跡
128	礼井戸条里	H7新規［148］	平安・中世	条里
129	礼井戸	H7新規［147］	縄文	集落跡
130	清蔵西	248［18］	平安	集落跡

表1　遺跡地名表（3）

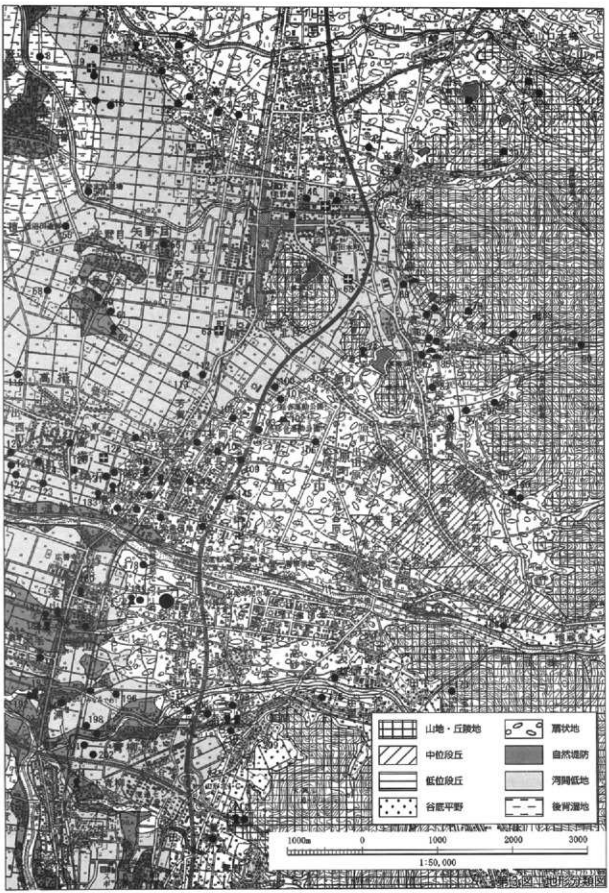
No.	遺跡名（別称・旧称）	県遺跡番号 （中世城館遺跡番号） ［大阪市遺跡番号］	時　期	種　別
131	高擶東	250[20]	古墳(後期)集落跡	
132	火矢塚2号古墳	240[10]	古墳	古墳
133	火矢塚1号古墳	239[9]	古墳	古墳
134	火矢塚	241[11]	縄文(中期・晩期)/古墳/奈良・平安	集落跡
135	清池	H7新規[129]	平安	集落跡
136	永源寺	238[8]	縄文(後期・晩期)/弥生/古墳(中期)/奈良・平安/中世	集落跡・寺院跡
137	村東B	243[13]	平安	集落跡
138	村東A	242[12]	中世	古銭出土地
139	中里A	246[16]	縄文(中期)・集落跡	
140	上遠矢塚古墳	244[14]	古墳(後期)古墳	
141	下遠矢塚古墳	245[15]	古墳	古墳
142	恵海寺	H7新規[145]	近世	寺院跡
143	薬師寺旧地	H7新規[146]	中世・近世	寺院跡
144	中里B	247[17]	平安	集落跡
145	長瓜墳墓	H7新規[139]	平安	墳墓
146	清池金石壇(清池金石壇B)	237[7]	中世	土壇
147	鳥居原土壇	H7新規[138]	中世・近世	土壇
148	清池廓壇(清池金石壇A)	236[6]	中世	土壇
149	三千歳	H7新規[126]	縄文/平安	集落跡
150	石仏廃寺	234[4]	平安・中世	寺院跡
151	安楽寺旧地	H7新規[117]	中世・近世	寺院跡
152	伊達城(城館)	235(210-017)[5]	中世	城館跡
153	伊達城(集落)	H7新規[136]	縄文	集落跡
154	清池廓壇(廓壇)	H7新規[130]	中世	土壇
155	荒谷下	233[3]	縄文(中期)	集落跡
156	長者屋敷	H7新規(210-019)	中世	城館跡
157	上荒谷	232[2]	縄文(前期)	集落跡
158	上荒谷土壇	231[1]	中世	土壇
159	石倉館	H7新規(210-018)[150]	近世	城館跡
160	石倉窯	H7新規[151]	奈良・平安	窯跡
161	正法寺(集落)	262[32]	縄文(中期)/平安	集落跡
162	正法寺(寺院)	H7新規[164]	中世	寺院跡
163	宮田	263[33]	縄文(晩期)	集落跡
164	伝覚平	261[31]	縄文(中期)	集落跡
165	石仙山（雲山）	260[30]	縄文(中期)	集落跡
166	南山	259[29]	縄文(中期)	集落跡
167	地蔵堂	185	縄文(中期)	集落跡
168	中地蔵	H2新規	縄文(中期)/平安	集落跡
169	大森A	179	縄文(前期)	集落跡
170	大森山古銭出土地	182	中世	古銭出土地
171	山形大森山緑墓	181	中世	墓塚
172	大森B	180	縄文(後期・晩期)	集落跡
173	三宝岡（寒屋敷）	184	奈良・平安	祭祀遺跡
174	大森舌当	H9新規	縄文(前期)/平安	集落跡
175	中里	183	奈良・平安	集落跡
176	中里館（二本堂館）	H7新規(201-027)	中世	城館跡
177	風間館	178(201-019)	中世	城館跡
178	一ノ坪	H9新規	縄文(晩期)/古墳/奈良・平安	集落跡
179	壇山	170	弥生(後期)	集落跡
180	柴崎古墳群	169	古墳	古墳
181	梅ノ木	H9新規	古墳/奈良・平安	古墳/集落跡
182	伊達城	171(201-021)	中世	城館跡
183	北道上B	168	奈良・平安	集落跡
184	北道上A(諏山)	162	弥生	集落跡
185	壇山館	H7新規(201-020)	中世	城館跡
186	衛守塚古墳群	163	古墳	古墳
187	衛守塚2号古墳	164	古墳	古墳
188	衛守塚1号古墳	165	奈良・平安	古墳
189	井森塚	166	弥生	集落跡
190	南川原	167	弥生(後期)	集落跡
191	千手堂大門	140	奈良・平安	集落跡
192	七浦	141	弥生(後期)/古墳(前期)	集落跡
193	七浦古墳群(狐山古墳群)	142	古墳	古墳

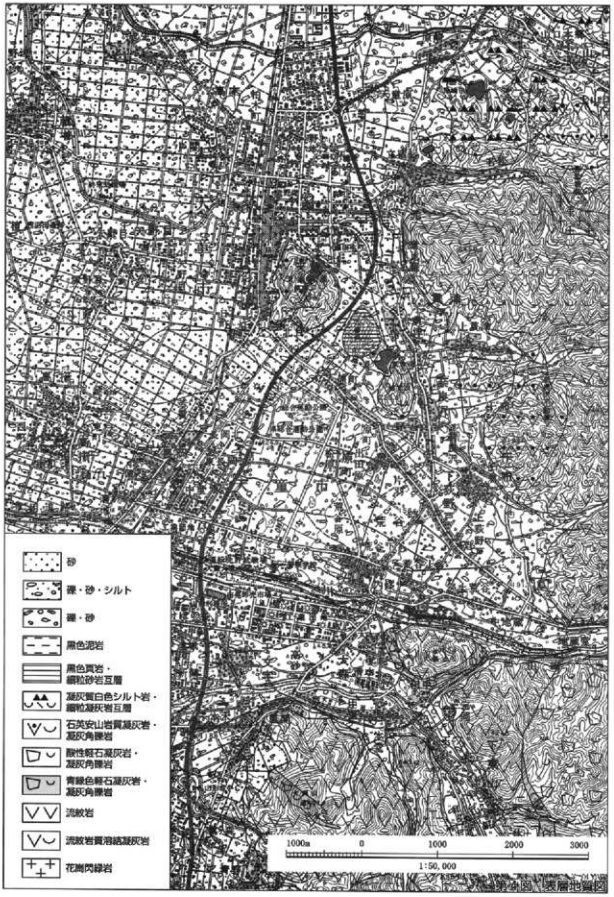
表1　遺跡地名表（4）

No.	遺跡名（別称・旧称）	県遺跡番号 （中世城館遺跡番号） 〔天童市遺跡番号〕	時　期	種　別
194	五反	144	古墳	古墳
195	大明神	143	奈良・平安/中世	集落跡
196	諏山長妻	H8新規	古墳/奈良・平安/中世	集落跡
197	七曲一ノ坪	145	弥生	集落跡
198	北柳1	H7新規	縄文(晩期末)～弥生(中期)/古墳	集落跡
199	北柳2	H7新規	古墳	集落跡
200	青柳堰	151	中世	城館跡
201	下柳C	154	奈良・平安	集落跡
202	下柳A	152	縄文/弥生/古墳	集落跡
203	下柳B	153	中世	墳墓
204	白山盛前	155	古墳	集落跡
205	一本木B	150	奈良・平安	集落跡
206	一本木A	149	奈良・平安	集落跡
207	風間B古墳	177	古墳	古墳
208	北向	H13新規	平安	集落跡
209	間所免古墳(風間A古墳)	175	古墳	古墳
210	寺西	174	奈良・平安	集落跡
211	お花山古墳群	30	弥生(後期)/古墳(中～後期)	集落跡/古墳
212	鷲ノ森	未登録	古墳	集落跡
213	浜田館	H7新規(201-046)	中世	城館跡
214	砂田	26	弥生	集落跡
215	長町北荊原	8	弥生(後期)	集落跡
216	長町	132	弥生	集落跡
217	西ノ神	9	弥生(後期)	集落跡
218	落合館	131(201-008)	中世	城館跡



第2図　調査概要図


山地・丘陵地
中位段丘
低位段丘
谷底平野
扇状地
自然堤防
河畔低地
後背湿地
1000m
0
1000
2000
3000
1:50,000


砂
礫・砂・シルト
礫・砂
黒色泥岩
黒色頁岩・
細粒砂岩互層
凝灰質白色シルト岩・
細粒凝灰岩互層
石英安山岩質凝灰岩・
凝灰角礫岩
酸性頁石凝灰岩・
凝灰角礫岩
青緑色頁石凝灰岩・
凝灰角礫岩
流紋岩
流紋岩質溶結凝灰岩
花崗閃緑岩
1000m　0　1000　2000　3000
1:50,000

Ⅲ　検出された遺構と遺物

1　遺跡の層序

本遺跡は、前章でのべたように、立谷川の形成した扇状地の扇端～扇央部にあたり、標高は約118mを測る。調査区域は、北東（立谷川方向）から南西へ向って緩やかに傾斜している。

遺跡を覆う覆土は、概ね上部から、表土層→自然堆積層（遺物包含層）→扇状地堆積物（砂層・砂礫層）となる（第5図）。

第Ⅰ層及び第Ⅱ層は、現地表面付近に堆積する表土層及び耕作土層である。概ね水平に堆積し、果樹による撹乱を多く含む。調査区全域で確認される。第Ⅲ層は、耕作土以下に確認される自然堆積層で、概ね水平に堆積するが、南側ではより砂質となり、層厚が増す。奈良平安期の遺物を包含する。竪穴住居跡の最上層の覆土は概ねこの層に起因する。第Ⅳ層は、第Ⅲ層と第Ⅴ層の漸移層で、北から南へ緩やかに傾斜して、ほぼ一定の厚さで堆積している。北側では褐色シルト乃至細砂を点状に、南東部では雲状に含む。調査区のほぼ全域で確認される。第Ⅴ層は、自然堆積層で、北から南へ向って地形の傾斜に併せて薄くなる。また南側ではより砂質となり、粗砂～細礫を含むようになる。調査区のほぼ全域で確認される。この層の上面及び第Ⅳ層下部が遺構検出面となる。第Ⅵ層は、自然堆積層で、Y軸12グリッド以南でのみ確認される。下位の層との境界は不明瞭である。北側では非常に薄く、南へ行くにつれやや層厚を増す。褐色微砂～細砂を北側では点状に、南側では雲状に含む。遺物は全く含まない。第Ⅶ層及び第Ⅷ層は、第Ⅵ層と同様の分布域を示す均質な自然堆積層で北側ではシルト質で南へ行くにつれ砂質となる。第Ⅸ層は、余り淘汰されていない砂礫層で、西側調査区外、N・O-4～11グリッド、G・H-11・12グリッド、N・O-18・19グリッドでは第Ⅲ層以下に、Y軸19グリッド以北では、第Ⅴ層以下に、以南では第Ⅷ層以下で確認される。

以上の所見から、本遺跡は立谷川あるいはその支流の形成した自然堤防上に営まれた集落であると推定される。

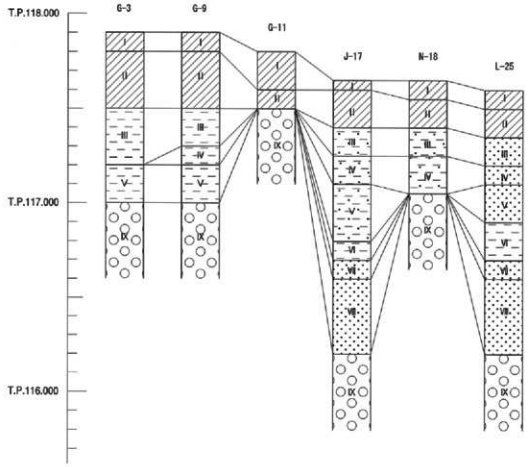
2　遺構の分布

今回の調査で確認された主な遺構は、古墳時代及び8世紀中葉から10世紀前葉の竪穴住居跡31棟で、その他、土坑、溝跡、不明ピットなどである（第6図）。柱穴と推定されるピットも確認されたが、調査区の幅が狭いためか、建物跡を構成するには至らなかった。これらは古代の竪穴住居跡等と中世以降の溝跡・土坑等に大別できる。

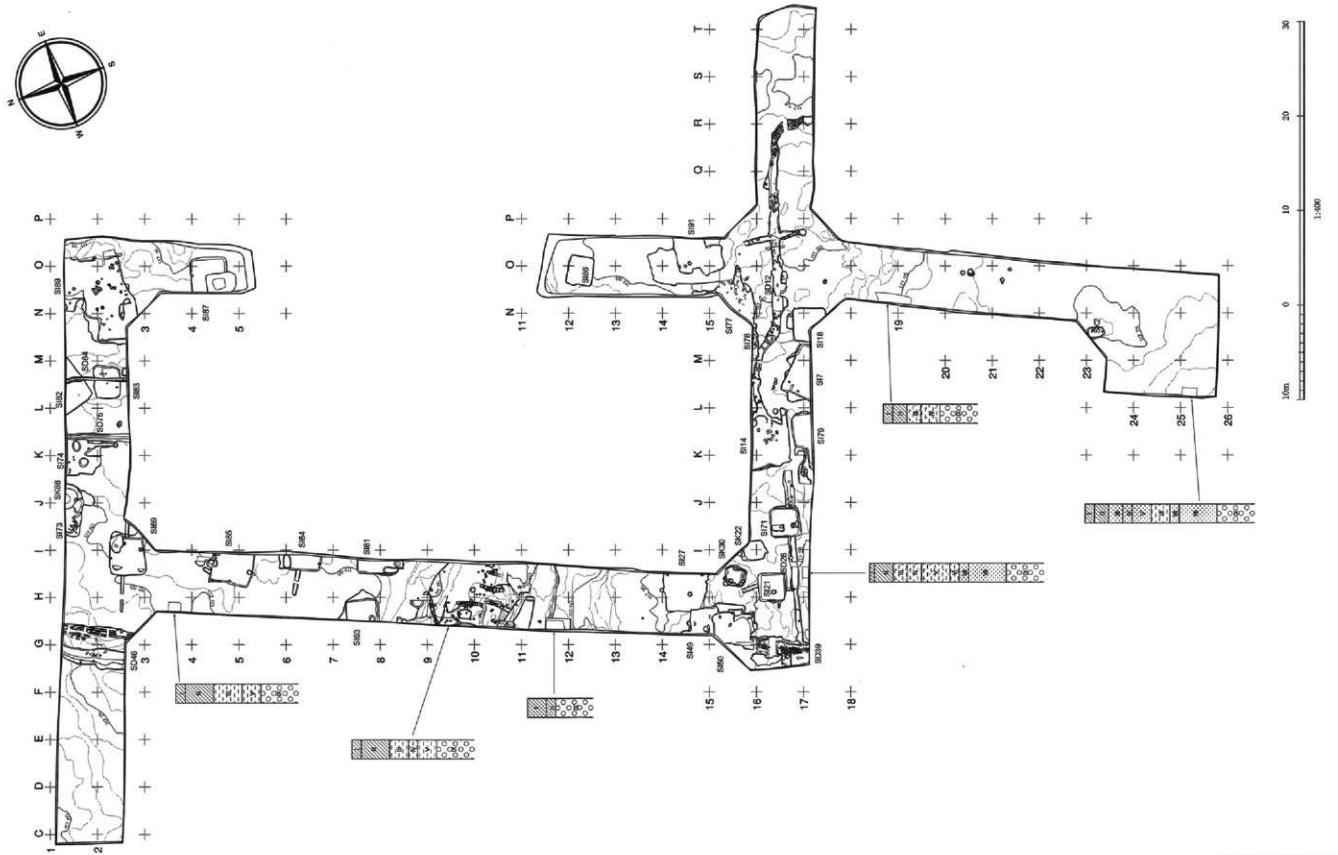
古代の遺構は、竪穴住居跡を主体とする。Y軸18グリッド以北でのみ確認され、G-14～N-18グリッドに密集する。未調査区域であるI-3～M-14グリッド付近においても試掘調査時に数棟の竪穴住居跡を確認している。X軸Gグリッド以西、Y軸18グリッド以南では、古代の遺物の出土が殆どなかったことから、古代の居住域の西限及び南限は上記グリッド付近と判断される。

中世以降の遺構は、SD12・26・39・48・75・84などの溝跡と中近世墓（SK2）である。SD12・26、SD39・

48はその走行方向と規模から恐らく同一のものと判断され、また、SD75・84はその規模及び形態から共存するものと判断される。これら溝跡は平行或いは直交するなど規則的な配置をとることから何らかの関連があるものと推定される。これら溝跡からは中近世の陶磁器が少量出土し、また、SD26溝跡からは馬の下顎骨が出土している。その他Y軸17以南で不明ピットが確認されたが、建物跡を構成するには至らなかった。



第5図　基本層序柱状図



第6図　遺構配置図

3　遺物の分類

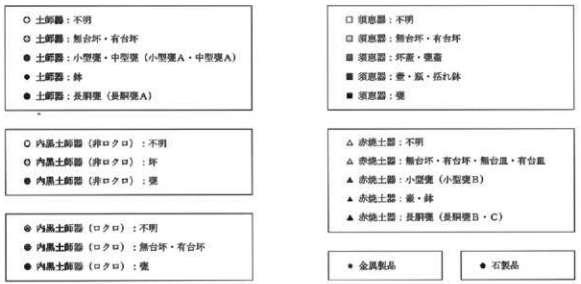
今回の調査で出土した遺物は殆どが、竪穴住居跡内から出土した８世紀中葉から10世紀前葉の土器類である。その他、石製品、金属製品、動物遺存体が出土している。今回採録したのは、平安期以前の遺物のみである。出土総量は整理箱で44箱である。

土器類は、焼成及び調整技法により、須恵器、土師器、赤焼土器の3種に分類した。

須恵器は、ロクロ調整で還元焔焼成のものとした。蜜類は殆ど出土せず、また大型甕類は全体の器形が判断できるものは出土しなかった。大型甕類の体部には、タタキメ、アテメが認められ、タタキメは平行タタキ、アテメは同心円状アテが殆どで、一部石によるアテが確認される。

土師器と赤焼土器の区別については、供膳具においては、ロクロの使用・未使用に拘らず、ミガキ調整のあるものを土師器とし、ミガキ調整が認められず、ロクロ使用で酸化焔調整のものを赤焼土器とした。内面にミガキ調整があっても、胎土・色調が赤焼土器と近似する個体も若干存在するが、今回は土師器に分類している。貯蔵具・煮沸具については、ロクロの使用が認められないものを土師器、使用が認められるものを赤焼土器とした。長胴甕がその殆どを占める。

器形については、その形態から、15種に大別し、おのおの整形・調整の特徴により細別している(第8～11図　表2)。その他、石製品、金属製品については、出土量が少ないため分類していない。



第7図　平面図内での出土遺物の表現

表2　遺物分類表（1）

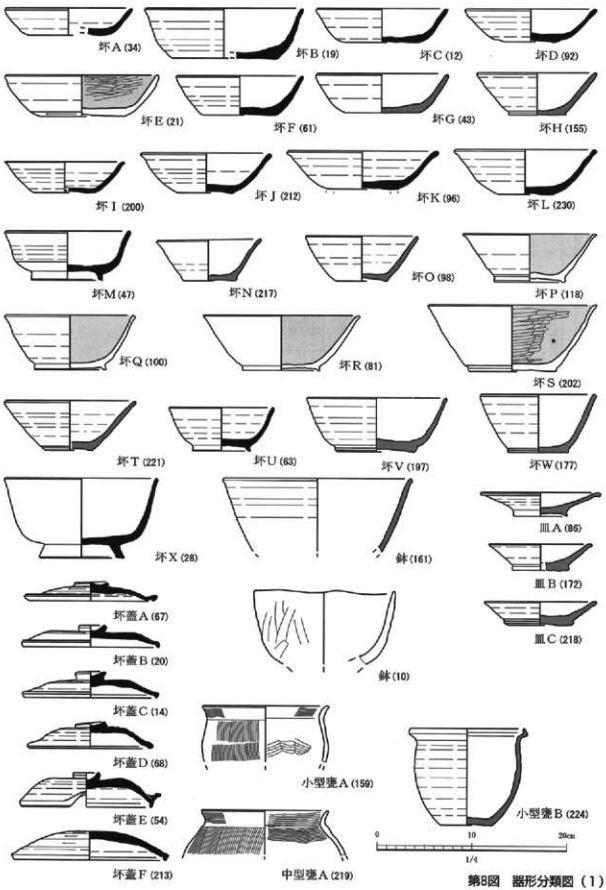
器種	全体の大きさ、形態		体部		口辺～口縁部		底部	
	大きさ、整形等	高台	形態	厚み	口辺部	口縁部	切離し	調整
無台坏・有台坏	A:口径137～162mm、底径84～115mm、器高29～34mm、口高指数22以下 B:口径126～166mm、底径72～110mm、器高39～51mm、口高指数30～32、外傾度27～35 C:口径139～148mm、底径74～94mm、器高34～37mm、口高指数24～26、外傾度34～41 D:口径128～140mm、底径58～66mm、器高30～34mm、口高指数23～25、外傾度45～51 E:口径162mm、底径90mm、器高44mm、口高指数27、外傾度39 F:口径132～135mm、底径74～77mm、器高42mm、口高指数31～32、外傾度35 G:口径128～140mm、底径75～84mm、器高36～42mm、口高指数27～30、外傾度33～37 H:口径128～140mm、底径60～75mm、器高42～48mm、口高指数32～36、外傾度33～39 I:口径128～142mm、底径48～74mm、器高33～38mm、口高指数25～29、外傾度40～48 J:口径128～143mm、底径55～72mm、器高40～43mm、口高指数28～32、外傾度38～45 K:口径160mm、底径70mm、器高41mm、口高指数26、外傾度48 L:口径176mm、底径55mm、器高46mm、口高指数26、外傾度53 M:口径134～137mm、底径76～87mm、器高44～45mm、口高指数32～33、外傾度29～34 N:口径108～118mm、底径54～66mm、器高43～50mm、口高指数36～46、外傾度29～34 O:口径120～122mm、底径55～65mm、器高46～49mm、口高指数37～41、外傾度31～35 P:口径132～148mm、底径72～78mm、器高50～53mm、口高指数34～40、外傾度28～35 Q:口径136～145mm、底径68～76mm、器高56～58mm、口高指数40～42、外傾度28～34 R:口径150～166mm、底径74～90mm、器高52～57mm、口高指数33～39、外傾度33～37 S:口径180mm、底径92mm、器高7mm1、口高指数39、外傾度32 T:口径128～142mm、底径50～64mm、器高49～54mm、口高指数35～43、外傾度33～41 U:口径106～112mm、底径48～68mm、器高44～47mm、口高指数39～43、外傾度24～33 V:口径148～155mm、底径72～85mm、器高56～60mm、口高指数37～40、外傾度28～34 W:口径125mm、底径65mm、器高61mm、口高指数49、外傾度26 X:口径160mm、底径80mm、器高72mm、口高指数45、外傾度29 ′:欠損により一部不明	a:付高台・端部が台に対して直角・底部との接合部分が厚い b:付高台・端部が台に対して直角・台の厚みが一定 c:付高台・端部が台に対して鈍角・底部との接合部分が厚い d:付高台・端部が台に対して鈍角・台の厚みが一定 e:付高台・端部が台に対して直角・外側に折れ曲がる f:付高台・台の断面が三角形 g:平高台で底部が接地する・屈曲部に沈線が廻るものである h:平高台で底部が接地しないが高さがほとんどない・屈曲部に沈線が廻るものがある i:平高台で、h類より接地面からの高さが大きい・屈曲部に沈線が廻るものがある j:平高台で台が明瞭・屈曲部に沈線が廻るものがある	I:直線的 II:底部付近で内弯 III:体部中程で内弯 IV:外反 V:体部下半で屈曲 ′:欠損により一部不明	a:一定 b:口辺部に向って薄くなる	i:直線的 ii:内弯 iii:外反 iv:外傾	a:丸い b:鋭角 c:外側へ折れ曲がる	1:回転施削り 2:回転鋭切 3:回転糸切 4:静止糸切 5:葉脈痕 6:編物圧痕 7:指頭痕 8:タタキ 9:不明	a:無調整 b:周辺部削り c:周辺部ナデ d:全面削り e:全面ナデ f:全面ミガキ
無台皿・有台皿	A:口高指数16未満 B:口高指数16～17.5 C:口高指数17.5～17.9 D:口高指数20以上 ′:欠損により一部不明							

表2　遺物分類表（2）

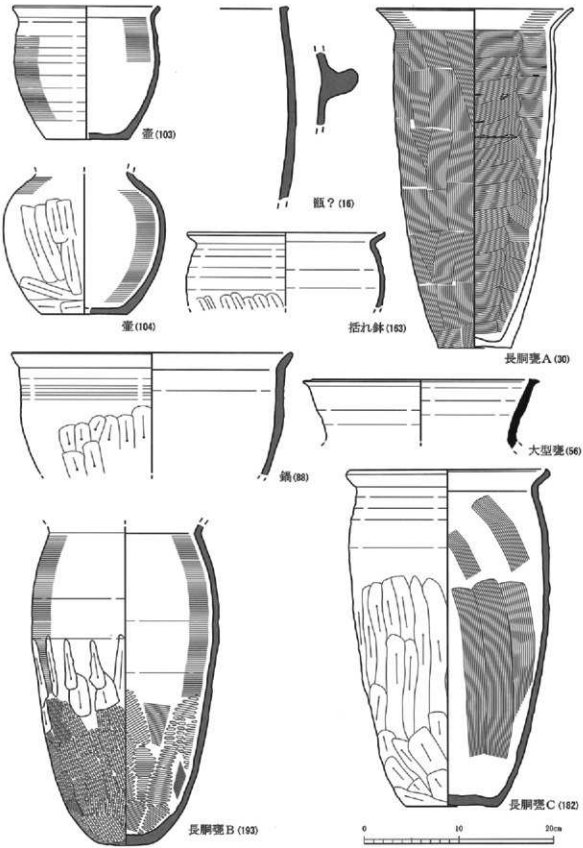
器種	全体の大きさ、形態		体部		口辺～口縁部		天井部	
	大きさ、整形等	ツマミ	形態	厚み	口辺部	口縁部	切離し	調整
坏蓋	A:口高指数11未満 B:口高指数11～12 C:口高指数13～15 D:口高指数16～18 E:口高指数18～19 F:口高指数20以上 ′ :欠損により一部不明	a:ツマミなし b:リング状ツマミ c:リング状ツマミで中央部が高く盛り上がるもの d:宝珠形ツマミ ′ :欠損	Ⅰ:直線的 Ⅱ:内弯 Ⅲ:外反	a:天井部と体部の厚みがほぼ一定か体部が厚い b:天井部に比して、体部が薄く且つ一定の厚み c:天井部に比して、体部が薄く且つ端部に向って薄くなる	i :直線的 ii :内弯 iii :外反 iv :外傾	a:直立 b:内傾 c:外傾 d:内側へ折れ曲がる	1:回転糸切り 2:回転篦切 3:回転糸切 4:静止糸切 5:葉脈痕 6:編物圧痕 7:指頭痕 8:タタキ 9:不明	a:無調整 b:周辺部削り c:周辺部ナデ d:全面削り e:全面ナデ f:全面ミガキ

表2　遺物分類表（3）

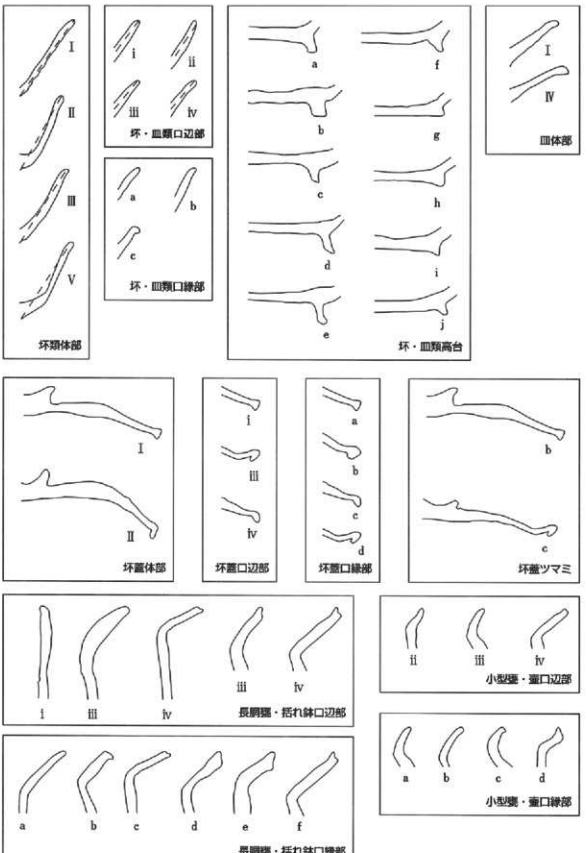
器種	全体の大きさ、形態	体部		口辺～口縁部		底部	
	大きさ、整形等	形態	調整	口辺部	口縁部	切離し	調整
小型甕・壺	A:非ロクロ B:ロクロ	Ⅰ:最大径が頸部付近 Ⅱ:最大径が体部上半	a:内外面全体ハケメ b:内外面カキメ、ケズリ c:ロクロのみ	i :直線的 ii :内弯 iii :外反 iv :外傾	a:縁部が丸い b:縁部が平坦 c:縁部に窪み d:くの字に屈曲	1:回転篦削り 2:回転篦切 3:回転糸切 4:静止糸切 5:葉脈痕 6:編物圧痕 7:指頭痕 8:タタキ 9:不明 ミガキ	a:無調整 b:周辺部削り c:周辺部ナデ d:全面削り e:全面ナデ f:全面
長胴甕・中型甕・搭れ鉢・鍋	A:非ロクロで平底 B:ロクロ丸底 C:ロクロで平底 ′ :欠損により一部不明	Ⅲ:最大径が体部中程	a:内外面ハケメもしくはナデ b1:外面ロクロ＋ケズリ、内面ロクロもしくはナデ（カキメ） b2:b1類の内、内面にハケメの認められるもの b3:b1類の内、外面にカキメの認められるもの下部が出っ張るものも含む。 b4:b3類の内、内面にハケメの認められるもの c1:外面ロクロ＋タタキ、内面ロクロ＋カキメもしくはナデ＋アテ c2:c1類の内、外面にケズリの認められるもの d:外面ロクロ＋ケズリ、内面顕著なナデ ′ :欠損により一部不明		a:縁部が丸い b:縁部が平坦。 c:縁部に窪み。下部が出っ張るものも含む d:上部をややつまみ出す e:上部をややつまみ出し、下部が出っ張る f:上部を強くつまみ出す g:上部を強くつまみだし、下部が出っ張る		
鉢	未分類						
大型甕	未分類						
甕蓋	未分類						


坏A (34)
坏B (19)
坏C (12)
坏D (92)
坏E (21)
坏F (61)
坏G (43)
坏H (155)
坏I (200)
坏J (212)
坏K (96)
坏L (230)
坏M (47)
坏N (217)
坏O (98)
坏P (118)
坏Q (100)
坏R (81)
坏S (202)
坏T (221)
坏U (63)
坏V (197)
坏W (177)
坏X (28)
鉢 (161)
ⅢA (86)
ⅢB (172)
ⅢC (218)
坏蓋A (67)
坏蓋B (20)
坏蓋C (14)
坏蓋D (68)
坏蓋E (54)
坏蓋F (213)
鉢 (10)
小型甕A (159)
中型甕A (219)
小型甕B (224)
0
10
20cm
1/4

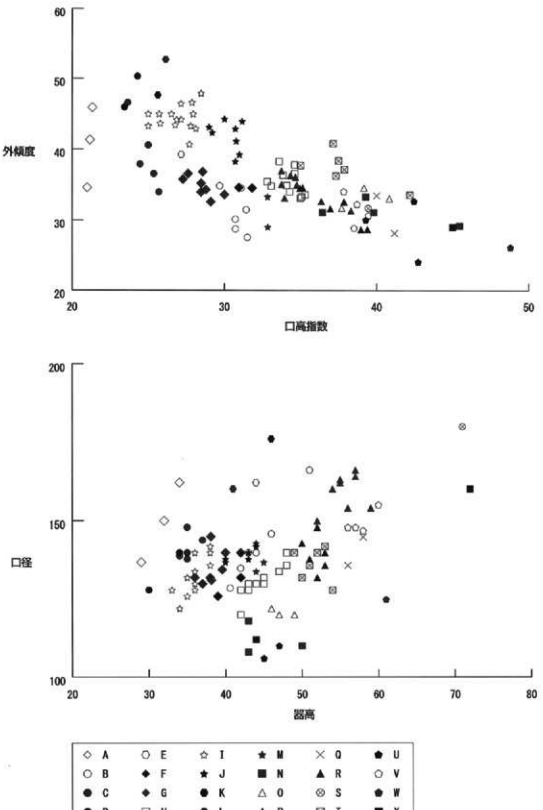
第8図　器形分類図（1）


壺(103)
甑？(16)
甕(104)
括れ鉢(163)
長胴甕A(30)
鍋(88)
大型甕(56)
長胴甕B(193)
長胴甕C(182)
0
10
20cm
1/4

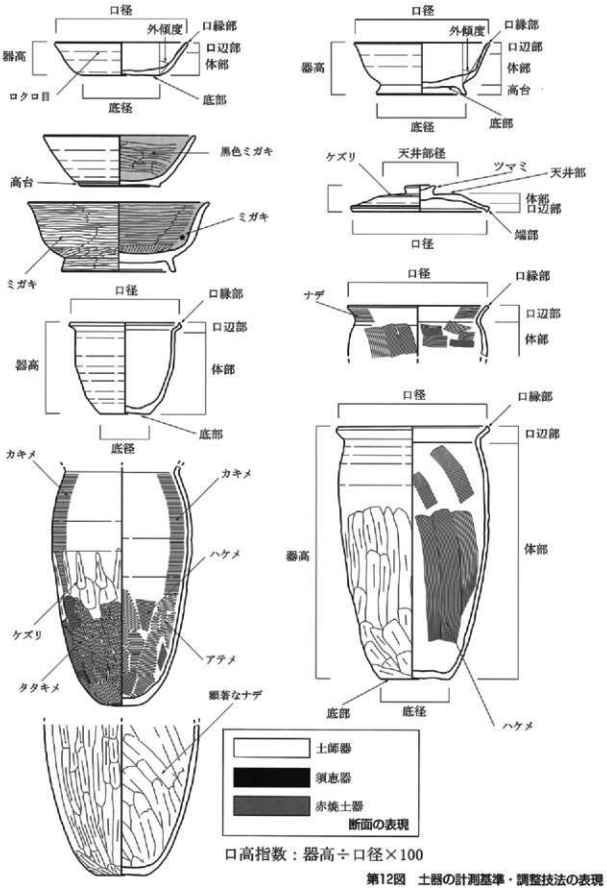
第９図　器形分類図（２）


Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅴ
坏類体部
i
ii
iii
iv
坏・皿類口辺部
a
b
c
坏・皿類口縁部
a
b
c
d
e
f
g
h
i
j
坏・皿類高台
Ⅰ
Ⅳ
皿体部
Ⅰ
Ⅱ
坏蓋体部
i
iii
iv
坏蓋口辺部
a
b
c
d
坏蓋口縁部
b
c
坏蓋ツマミ
i
iii
iv
長胴甕・括れ鉢口辺部
i
iii
iv
長胴甕・括れ鉢口縁部
ii
iii
iv
小型甕・壷口辺部
a
b
c
d
小型甕・壷口縁部

第10図　部位分類図



第11図　坏類の口高指数と外傾度・口径と器高



口高指数：器高÷口径×100

第12図　土器の計測基準・調整技法の表現

4　竪穴住居跡

竪穴住居跡は、8世紀中葉から9世紀中葉を主体とし31棟確認した。調査区の幅が狭いため、全体を検出できたものは殆どなかった。いずれの住居跡においても住居内に柱穴及び周溝は確認されなかった。なお、土器の年代観については、「山形県の古代土器編年」（阿部・水戸1999）に拠った。また器形別の遺物の出土傾向については、表6に示した。

SI7a竪穴住居跡（第13～15図　図版2・5　表3～6）

L・M-16・17グリッドに位置する。Ⅴ層上部で確認し、Ⅶ層まで掘り込まれている。隅丸方形を呈し、530cm×350cm以上の規模を持つ。南側は調査区外となる。後述のSI7b・c竪穴住居跡に切られ、床面付近のみ確認している。床面は明確な貼床を持たないが7層上面と判断される。覆土に未風化の亜円礫を含み、床面付近でもそれら礫が確認される。遺物は土師器甕を主体とし北西隅で少量出土したのみで、殆ど接合しない。古墳時代の所産と推定される。

SI7b竪穴住居跡（第13～15図　図版2・5表3～6）

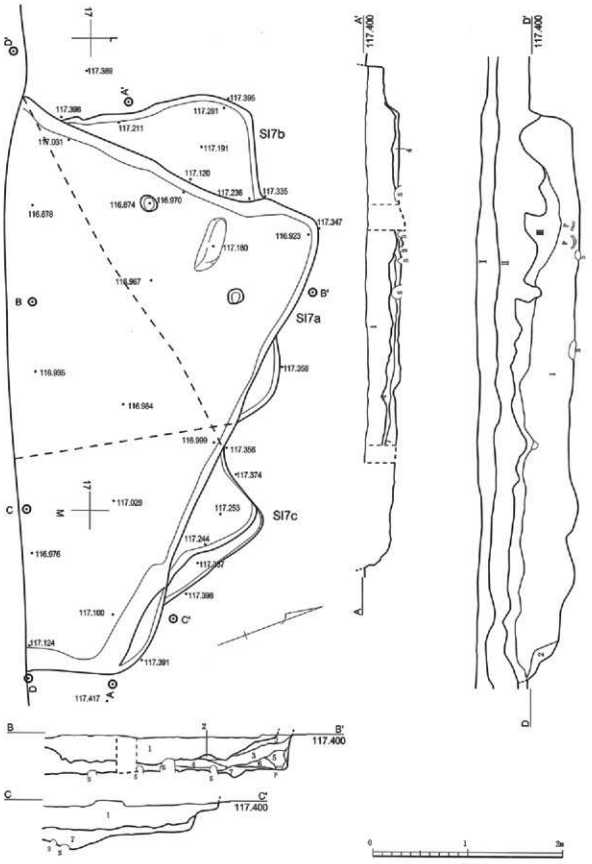
L-16・17グリッドに位置する。Ⅴ層上部で確認し、Ⅶ層まで掘り込まれている。隅丸方形を呈し、340cm×300cm以上の規模を持つ。南側は調査区外となり、SI7c竪穴住居跡に切られる。地山を直接床面にしている。覆土に未風化小～中亜円礫を微量に含む。遺物は南側に密集し、殆ど接合しない。後述のSI7c竪穴住居跡出土遺物との弁別が困難であるが、概ね1層中位で出土する遺物が帰属すると推定される。坏類は全て回転篦切で切離し後にナデや削り調整が施される。須恵器が主体をなし土師器と赤焼土器は少量である。甕類は全て土師器で小型甕・長胴甕の破片が出土している。底部の切離しは編物圧痕或いは糸脈痕である。8世紀中葉と推定される。

SI7c竪穴住居跡（第12～14図　図版2・5　表3～6）

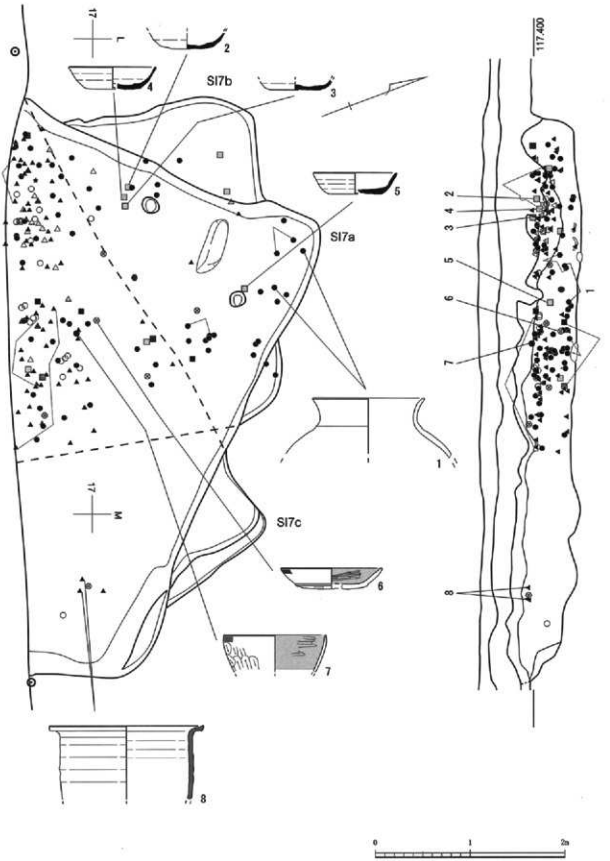
L・M-16・17グリッドに位置する。Ⅴ層上部で確認し、Ⅶ層まで掘り込まれている。隅丸方形を呈し、530cm以上×290cm以上の規模を持つ。南側は調査区外となる。他の同時期の住居跡と軸がややずれる。床面は確認できなかったが、遺物の出土状況から1層上部と推定される。覆土に未風化小～中亜円礫を微量に含む。遺物は北西隅に密集し、東辺付近中央から少量出土している。概ね1層最上部の遺物が帰属すると推定されるが、殆ど接合しない。北西隅の密集部は、上記のSI7b竪穴住居跡出土遺物と混在している。坏類は全て回転糸切で切離し後に調整は施されない。赤焼土器が主体となる。甕類は赤焼土器が主体で、底部の形状を確認できる個体はなかった。9世紀後葉と推定される。

SI63竪穴住居跡（第16図　図版2・5　表3～6）

G・H-7グリッドに位置し、Ⅴ層上部で確認した。隅丸方形を呈し、340cm×240cm以上の規模を持つ。上面及び最下層を果樹により撹乱され、西側は調査区外となる。床面に硬化部分（Ⅴ層）があるが、突きかためたような痕跡はなかった。東壁付近で焼土を確認しており、その付近にカマドがあったと推定される。覆土は全般的に砂質で未風化細～小亜円礫を微量に含むほか、被熱した巨岩がある。遺物は焼土付近に比較的多く分布するが、覆土中の出土が主体である。微量で殆ど接合せず、全体の器



第13図　SI7竪穴住居跡平面図

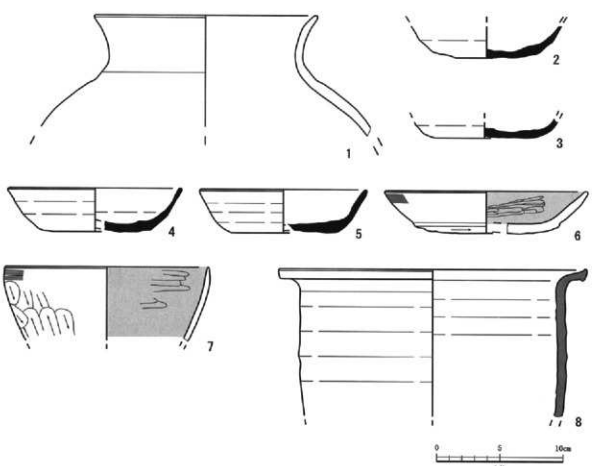


第14図　SI7竪穴住居跡遺物出土位置図

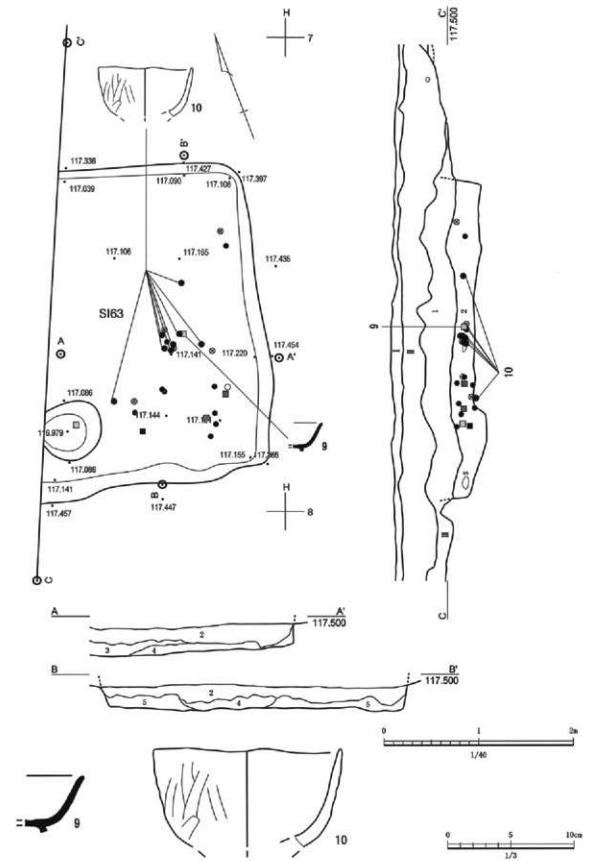
形が判断できる個体は殆どなかった。須恵器坏・土師器鉢・土師器長胴甕・須恵器中型甕が出土し、赤焼土器は全く出土しない。底部の切離しを確認できる個体はなかった。8世紀中葉と推定される。

SI81竪穴住居跡（第17図　図版3・5　表3～6）

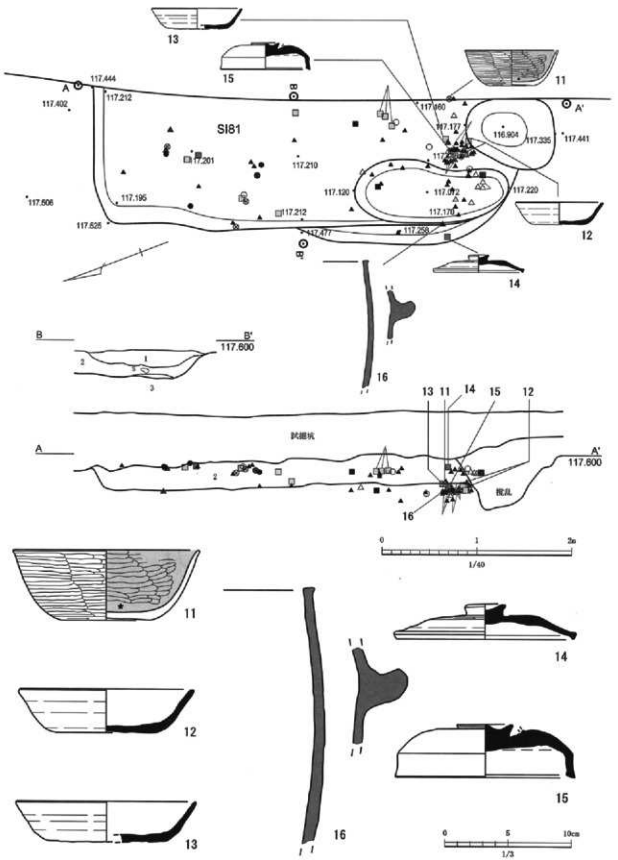
H-7・8グリッドに位置し、V層上面で確認した。隅丸方形を呈し、450cm×140cm以上の規模を持つ。南壁付近が果樹により攪乱される。地山（V層）を床面にしているが西辺に一部貼床が認められた。攪乱付近にカマドが位置していたと推定される。また南西隅に浅い掘り込みを確認した。覆土は全般的に砂質で未風化中～大亜円礫を含む。遺物は南部に密集している。坏類は内面に黒色ミガキの施される土師器と須恵器がほぼ等量出土し、赤焼土器が僅かに出土している。全て回転篦切で切離し後にナデ調製が施される。甕類は小型甕・長胴甕ともに赤焼土器が大半を占め、土師器は微量である。全体の器形が判断できる個体はなかった。また土師器では丸胴を呈する破片が若干出土している。その他、甑と推定される赤焼土器（16）と須恵器甕蓋（15）が出土している。甕蓋は外面に自然釉が看取され、また天井部と体部との境界に破断面が認められる。8世紀中葉と推定される。



第15図　SI7竪穴住居跡出土遺物



第16図　SI63竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物



第17図　SI81竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物

SI82竪穴住居跡（第18図　図版4・5　表3～6）

L-1グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、490cm以上×380cm以上の規模を持つ。上面がかなり削平され、またSD84溝跡に切られる。北東半調査区外となる。地山（Ⅴ層）を床面にしている。覆土の状況は判然としないが、概ねⅢ層に近似し覆土中に礫を含まない。他の同時期の住居跡と軸がややずれる。土師器無台坏（17）が出土している。8世紀中葉と推定される。

SI64竪穴住居跡（第19図　図版2・5・6　表3～6）

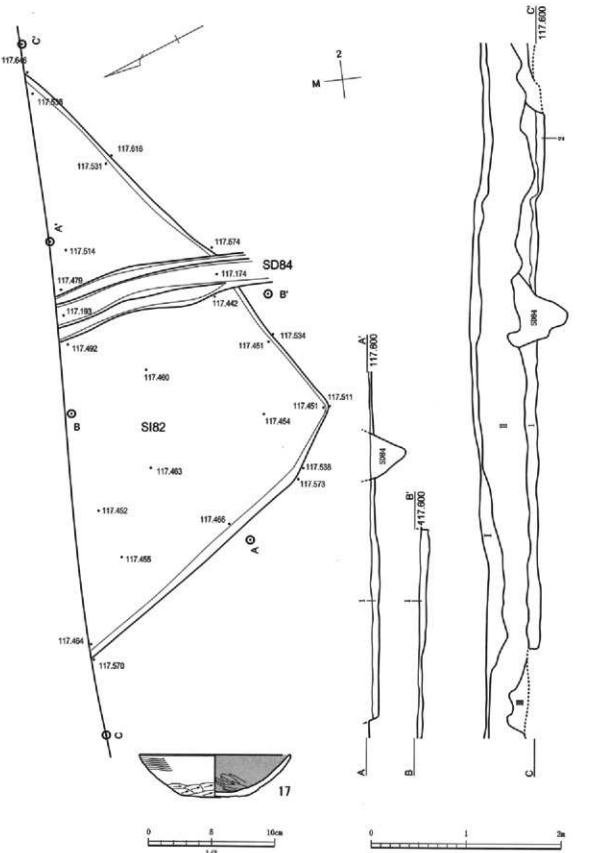
H-5・6グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、460cm×170cm以上の規模を持つ。一部試掘溝で撹乱され、東側が調査区外となる。地山（Ⅴ層）を床面にしている。覆土は全般的に砂質で、未風化小～中亜円礫を微量に、Ⅴ層に近似する小細砂粒を点状に含む。上層には植物根を含む。遺物は住居内のほぼ全域に散布するが、微量で殆ど接合しない。坏類は全て回転篦切で、切離し後にナデや削り調整が施される。土師器と須恵器では須恵器がやや多く、赤焼土器は1片のみである。また底部全面を非常に丁寧な篦削りを施す須恵器無台坏（22）が出土している。甕類では土師器と赤焼土器の長胴甕がほぼ等量出土し、須恵器の中型甕と大型甕が少量出土している。底部の形状を確認できる個体はなかった。また須恵器括れ鉢（24）が出土している。8世紀中葉と推定される。

SI85竪穴住居跡（第20・21図　図版4～6　表3～6）

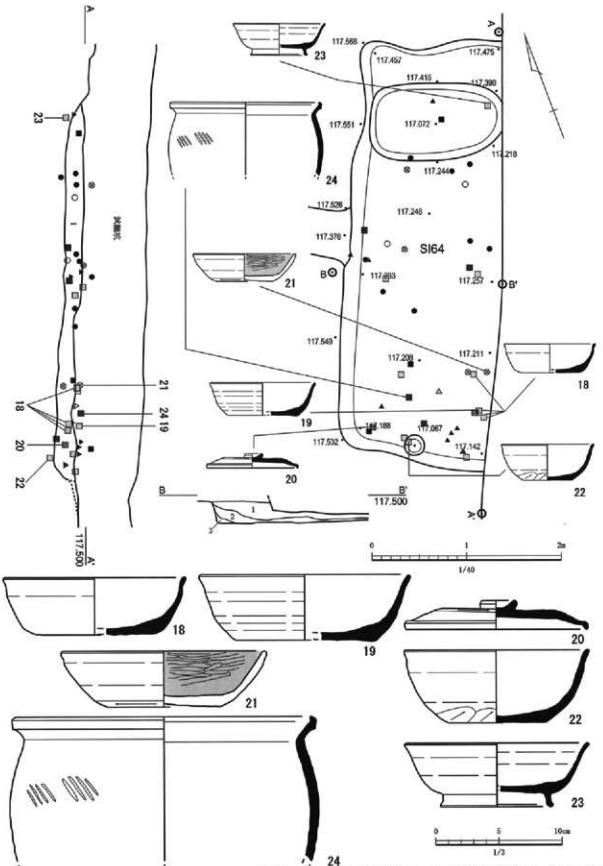
H-4・5グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、430cm×370cm以上の規模を持つ。東側が調査区外となる。地山（Ⅴ層）を床面にしている。北側にカマドが位置する。覆土にはⅤ層に近似する小～大シルト粒を含む。遺物はカマド付近に密集するが、かなり広範囲で接合する。坏類は全て回転篦切で、無台のものは切離し後に調整が施されない。土師器、須恵器が出土し、赤焼土器は出土しなかった。鉢形を呈する須恵器坏（28）が出土している。甕類は、長胴甕と大型甕のみで小型甕は出土しなかった。長胴甕では大半が底部切離しが糸脈痕の土師器で赤焼土器は微量である。8世紀後葉と推定される。

SI27竪穴住居跡（第22～24図　図版2・6　表3～6）

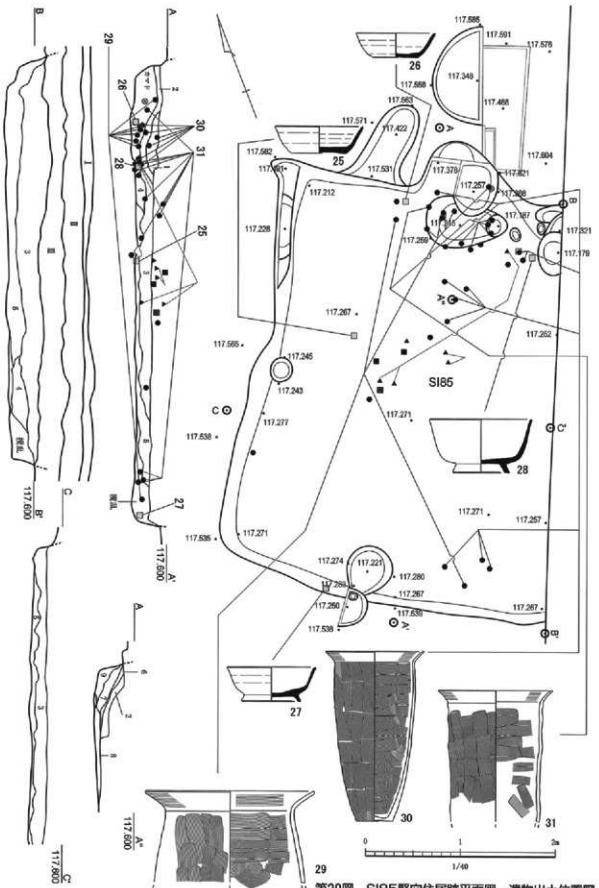
G・H-14グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認している。隅丸方形を呈し、470cm×400cm以上の規模を持つ。一部試掘坑で撹乱され、東側が調査区外となる。地山（Ⅴ層）を直接床面にしており、Ⅶ層付近まで掘り込まれる。南東部付近でカマドと推定される焼土を確認している。覆土は全般的に砂質で未風化中～大亜円礫を微量に含む。遺物は住居跡全域に分布し、広い範囲で接合する。概ね床面付近の出土であるがカマド付近からの出土がやや多い。このような南北方向に広く接合する住居跡は上記のSI85竪穴住居跡と本住居跡のみである。坏類は全て回転篦切で、切離し後にナデ調整が施される。須恵器が主体で土師器は殆ど出土しない。甕類は、長胴甕では赤焼土器が、小型甕では土師器が主体を占める。底部の形状を確認できる個体はなかった。また須恵器大型甕が僅かに出土した。8世紀末から9世紀前葉と推定される。



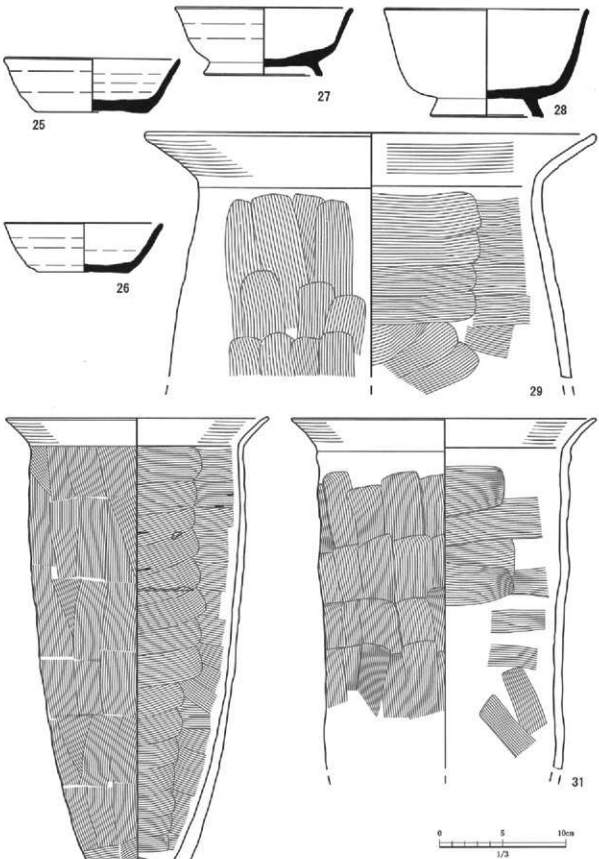
第18図　SI82竪穴住居跡平面図・出土遺物



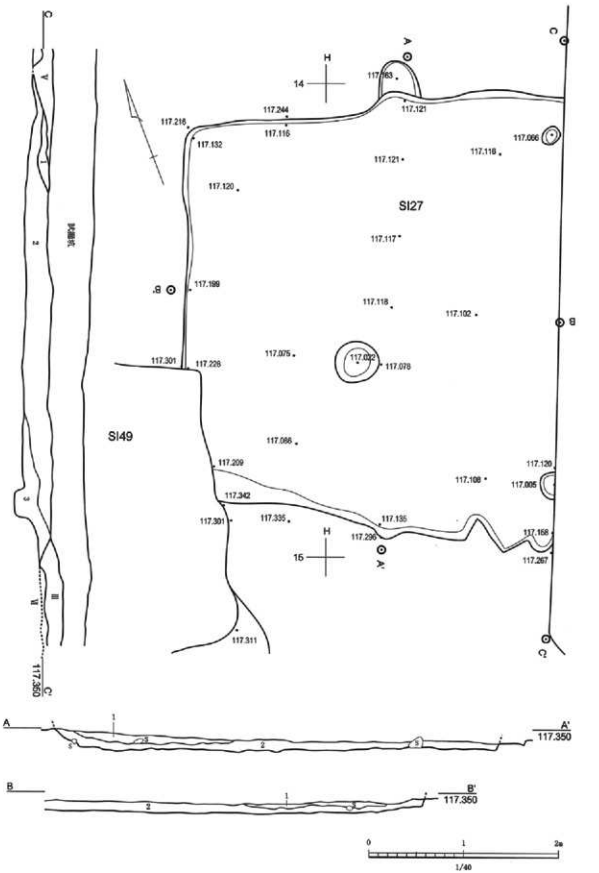
第19図　SI64竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物



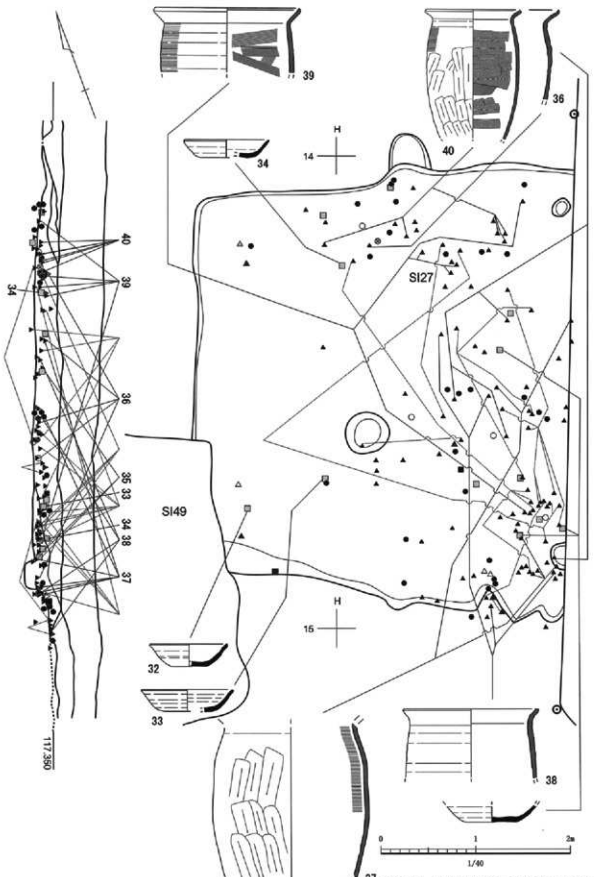
第20図　SI85竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図



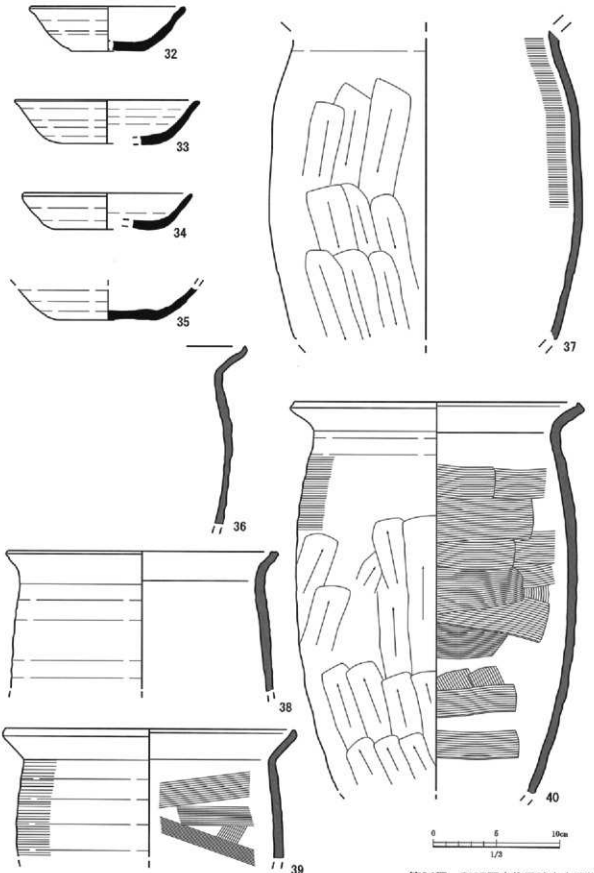
第21図　SI85竪穴住居跡出土遺物



第22図　SI27竪穴住居跡平面図



第23図　SI27竪穴住居跡遺物出土位置図



第24図　SI27竪穴住居跡出土遺物

SI71竪穴住居跡（第25図　図版3・6・7　表3～6）

I-16グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認している。隅丸方形を呈し、330cm×320cmの規模を持つ。地山を直接床面にしており、Ⅶ層まで掘り込まれる。南東隅で若干の焼土が確認され、恐らくカマドが位置していたと推定される。覆土は全般的に砂質で、最上層には細礫を微量に含み、全ての層でⅤ層に近似する細～小徴砂質シルト粒を含む。遺物は上位層ではほぼ全域に、中位の層では全く出土せず、床面付近では上記のカマド付近に密集する。最上層北側及び西側の遺物は、後世の流れ込みの可能性が高い。坏類は全て回転篦切で、切離し後にナデ調整が施される。殆どが須恵器である。内外面に黒色化処理をしないミガキを施す稜椀風の土師器有台坏（41）が出土している。甕類は小型甕、長胴甕、大型甕が出土する。長胴甕では土師器・赤焼土器ともに出土するが、土師器が上層に偏る。小型甕では殆どが赤焼土器である。須恵器大型甕は、数片のみである。8世紀末から9世紀前葉と推定される。

SI74竪穴住居跡（第26・27図　図版3・7・14　表3～6）

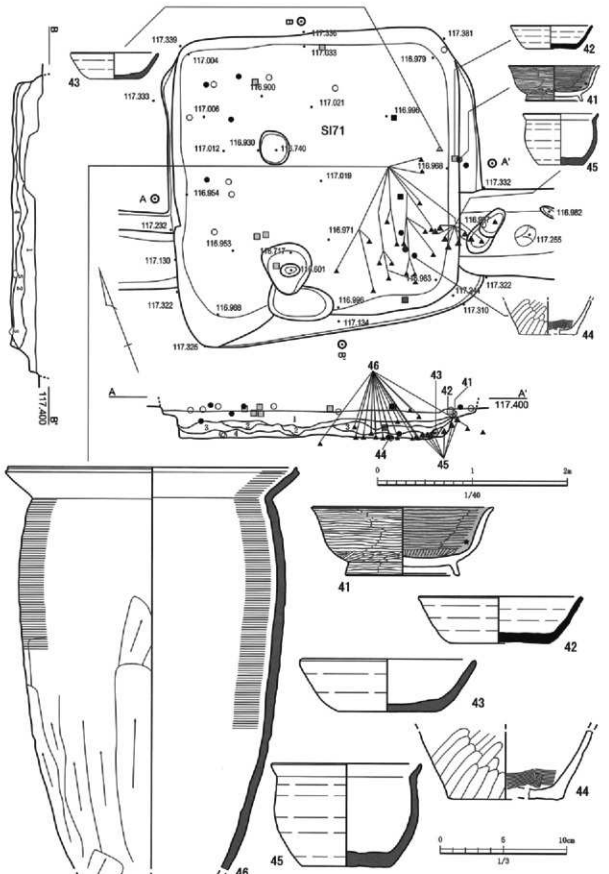
J・K-1グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認している。掘り込みはⅤ層中で終わる。隅丸方形を呈し、380cm以上×220cm以上の規模を持つ。SD75溝跡に切られ、北側が調査区外となる。貼床を構築している。南東隅に煙道を持つカマドが位置する。袖等は撹乱され確認できなかったが、焚き口付近に浅い掘り込みがある。覆土は上層に細礫を微量に含み、全般的にⅤ層に近似する小～大シルト粒を点～雲状に含む。遺物は、住居内のほぼ全域に散布するが、殆ど接合しない。また、上記溝跡内に若干混入する。坏類は殆どが回転篦切で、赤焼土器のみ回転糸切である。篦切のものは切離し後にナデ調整が施される。須恵器が大半を占め、土師器・赤焼土器が微量に出土する。甕類は土師器と赤焼土器の長胴甕がほぼ等量出土するほか、土師器の中型甕、赤焼土器の小型甕、須恵器の大型甕が出土している。いずれも小破片で全体の器形は判断できなかった。煙道内から須恵器有台坏（48）、椀形を呈する土師器無台坏（51）及び鉄鎌（52）が出土している。また底部外面に篦描きのある須恵器有台坏（49）が出土している。8世紀末から9世紀前葉と推定される。

SI86竪穴住居跡（第28図　図版4・7　表3～6）

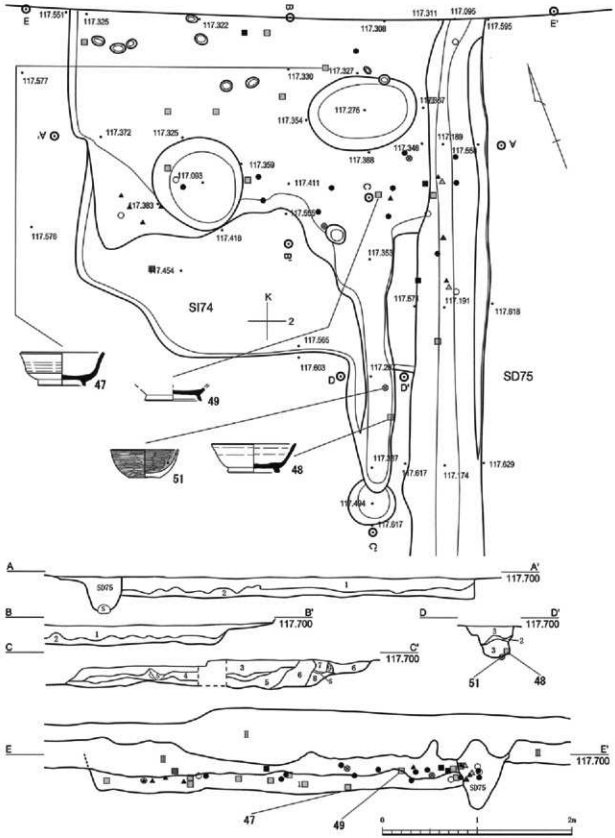
N・O-11・12グリッドに位置しⅤ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、300cm×270cmの規模を持つ。上面が削平を受け、床面付近しか遺存していない。床面は地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。覆土は全般的に砂質で、粗砂が混じり、未風化中亜円礫を微量に含む。またⅦ層に近似した砂ブロックに富む。遺物は概ね住居内東半分にまばらに散布し、殆ど接合しない。坏類は全て回転篦切で、切離し後にナデ調製が施される。赤焼土器は出土しなかった。片側にカエリがつく坏蓋（54）が出土している。甕類は長胴甕では殆どが赤焼土器で土師器は微量である。小型甕は赤焼土器のみ出土した。8世紀末から9世紀前葉と推定される。

SI14竪穴住居跡（第29～33図　図版2・7～9・14　表3～6）

J・K-15・16グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、530cm×370cm以上の規模を持つ。東壁及び南壁をSD12溝跡に切られる。地山（Ⅶ層）を直接床面にしており、かなりの範囲で



第25図　SI71竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物

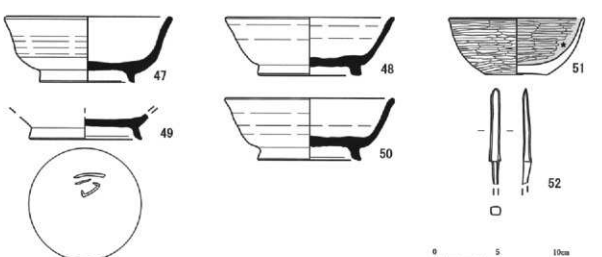


第26図　SI74竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図

被熱している。南側中央部に人頭大の礫を使用したカマドが構築されるが、煙道はSD12溝跡に壊され確認できなかった。覆土はV層に近似する小～中シルト粒、カマド起因の小～中焼土粒を点状に含む。遺物は今回の調査で確認された住居跡で最も多量に出土している。カマド焚き口付近を除き住居跡全域から出土し、特に東側に密集していた。遺物の密集部下層では、浅い掘り込みがあり、下層に白色の灰のような堆積物が確認された。カマドの規模が大きいこと、袋状鉄斧（107）や金属製紡錘車（108）が出土したことなどから、鍛冶関連遺構の可能性を考慮し、覆土を持ち帰り篩にかけたが、鉄滓や鍛冶関連遺物は全く出土しなかった。むしろ東側の掘り込み部が土器焼成に関連する構造物なのかもしれない。坏類は、土師器、須恵器、赤焼土器が出土し、特に内黒土師器の出土が目立つ。赤焼土器は微量である。底部切離しは殆どが回転糸切で、僅かに回転篦切が認められる。両者とも切離し後にナデや削り調整が施されるものと無調整のものがある。甕類は、小型甕・中型甕・長胴甕ともに赤焼土器が大半を占め、須恵器大型甕が若干出土した。底部の形状を確認できるものはなかった。その他、赤焼土器蓋（103・104）、赤焼土器鍋（88）など多様な器種が出土した。なお、赤焼土器壷（104）直下より袋状鉄斧（107）が出土している。また、底部に墨書のある須恵器無台坏（62・96・97）が出土している。遺物にやや時期幅があると推定されるが、概ね9世紀中葉と推定される。

SI18竪穴住居跡（第34～37図　図版2・9・10・14　表3～6）

M・N-16・17グリッドに位置し、V層上面で確認した。隅丸方形を呈し、370cm×360cmの規模を持つ。上面を果樹により撹乱され、南西隅が一部調査区外となる。地山（Ⅶ層）を直接床面にしている。北壁東部で若干の焼土を確認している。覆土は上層に未風化小～大亜円礫・亜角礫を微量に含み、下層にV層に近似する小シルト粒を点～雲状に含む。遺物は広範囲に分布し、概ね床面付近の出土で、遺存状態が良い。坏類は、土師器と須恵器がほぼ同量出土したが、内黒土師器の出土がやや多い。赤焼土器は全く出土しない。底部切離しは1点を除き全て回転糸切で、切離し後にナデ調製が施されるものと無調整のものがある。甕類は長胴甕では土師器が大半を占め、赤焼土器は少量である。また丸

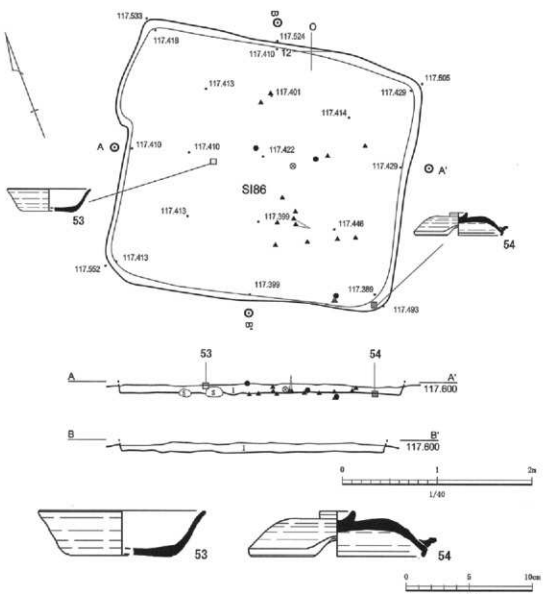


第27図　SI74竪穴住居跡出土遺物

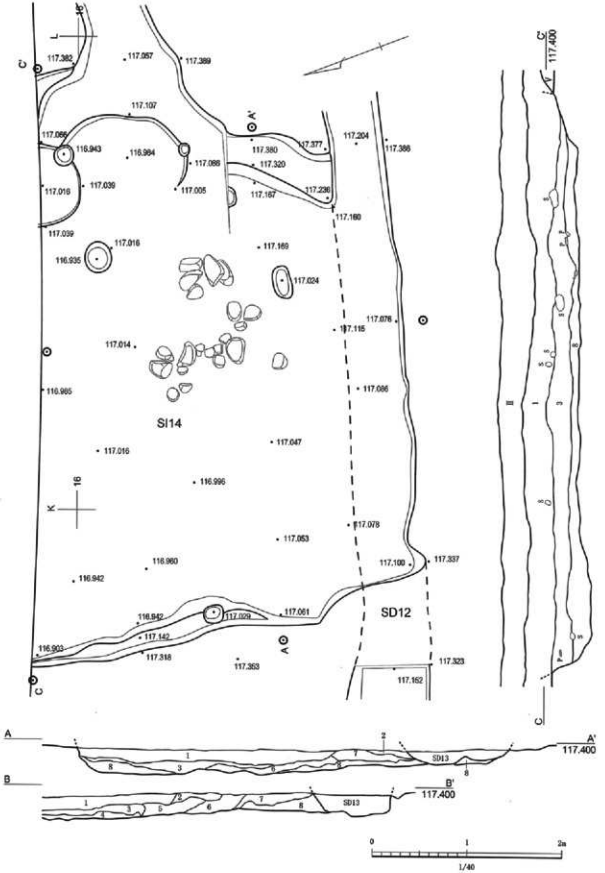
胴と判断される土師器甕が微量にある。小型甕では土師器と赤焼土器がほぼ等量出土したが、少量である。須恵器大甕が僅かに出土した。金属製鎌（145）が出土している。9世紀中葉と推定される。

SI49竪穴住居跡（第38～40図　図版2・10　表3～6）

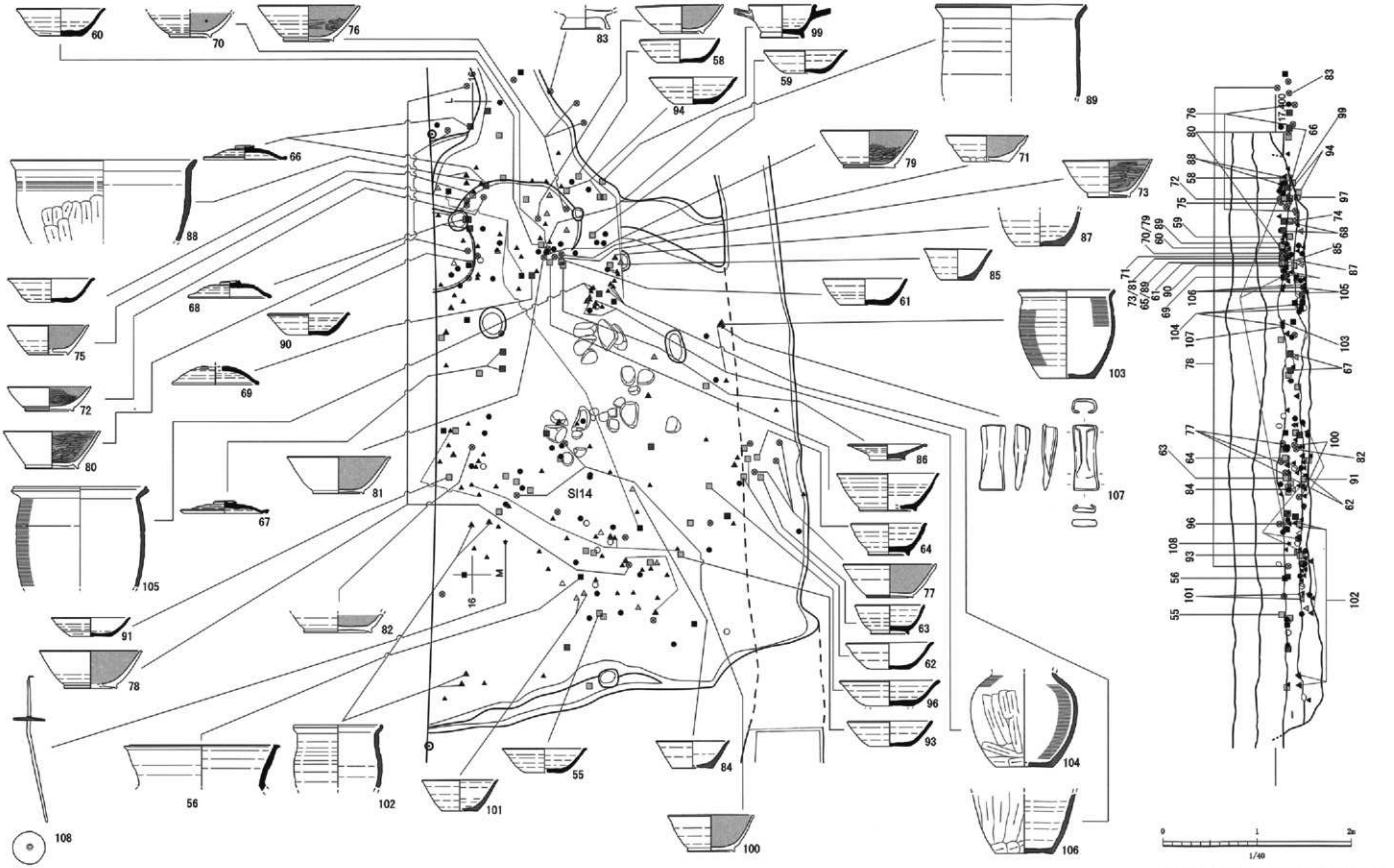
G-14・15グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、210cm×200cm以上の規模を持つ。SI27・50竪穴住居跡を切り、南西部を果樹により撹乱され、西側が調査区外となる。貼床を構築している。Ⅶ層付近まで掘り込まれる。北壁にカマドが確認されたが、遺存状態が悪く、構造は不明である。覆土は全般的に砂質で、来風化小～大亜円礫を微量に含み、Ⅴ層に近似する小細砂粒を点状に含む。上層には植物根を含む。遺物の出土量は非常に少ない。坏類の出土は微量で全て回転糸切である。甕類は長胴甕は全て土師器で、口辺部と体部の境界に沈線を廻らせ、口辺部が直立する土師器長胴甕（146）や体部上半でハケメ調整の後、顕著なナデを施す土師器長胴甕（147）といった他の



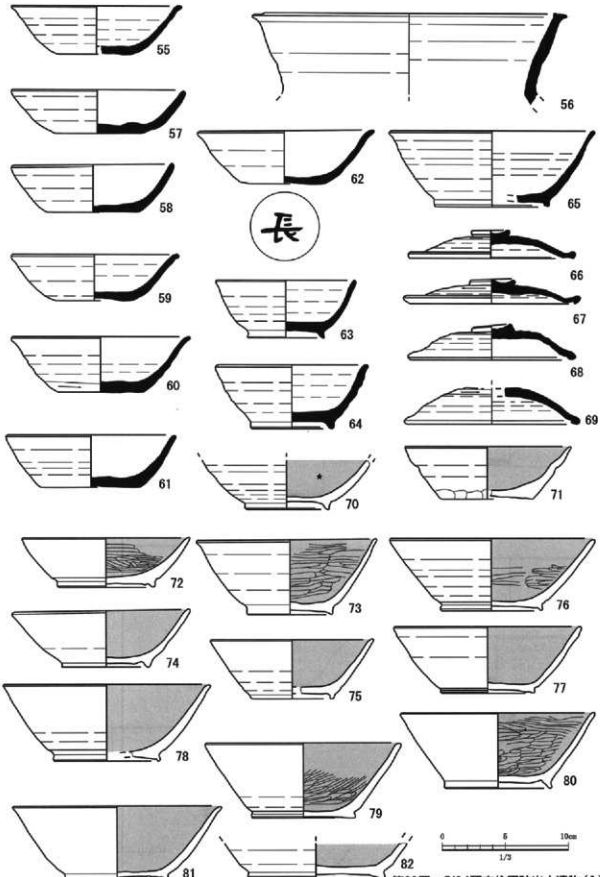
第28図　SI86竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物



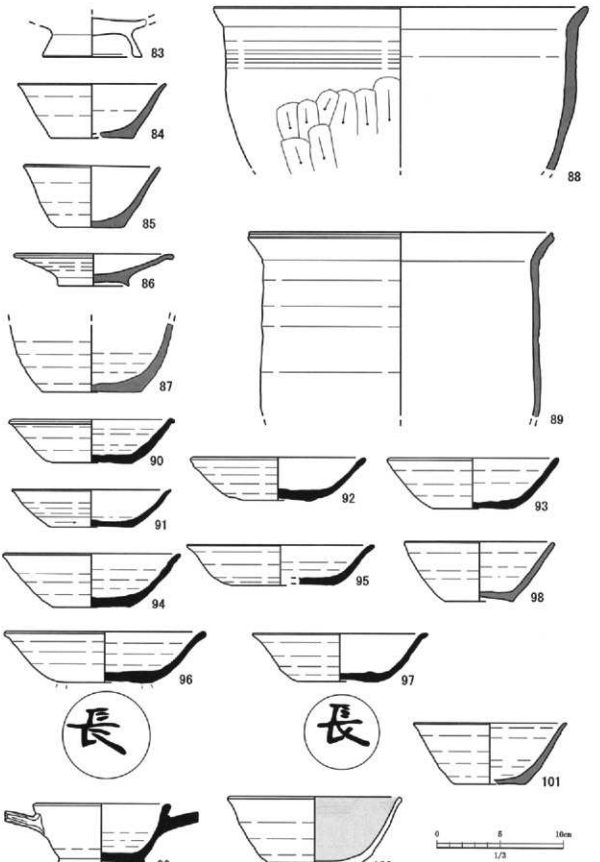
第29図 SI14竪穴住居跡平面図



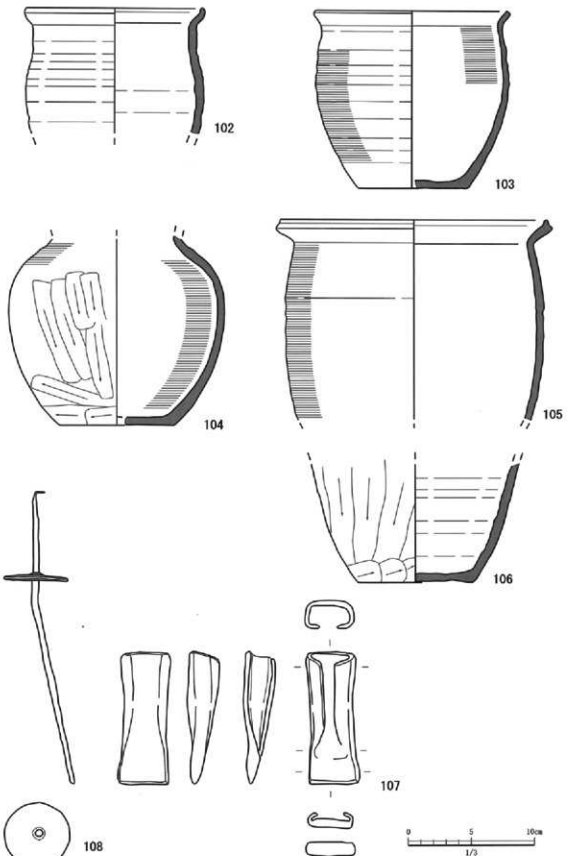
第30図　SI14竪穴住居跡遺物出土位置図



第31図　SI14竪穴住居跡出土遺物(1)



第32図　SI14竪穴住居跡出土遺物(2)

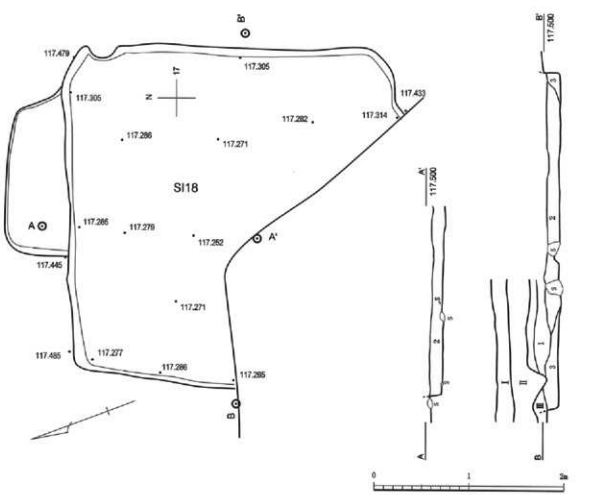


第33図　SI14竪穴住居跡出土遺物(3)

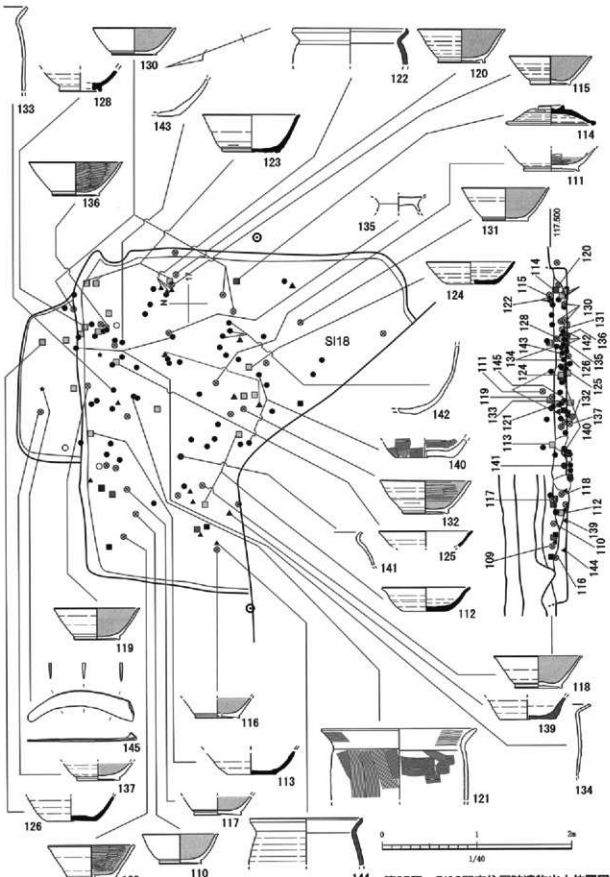
住居跡では見られない長胴甕が出土している。須恵器大型甕及び壺が数片出土している。また、完形の袋状鉄斧（148）が1点出土している。9世紀中葉と推定される。

SI50竪穴住居跡（第38～41図　図版2・10・11　表3～6）

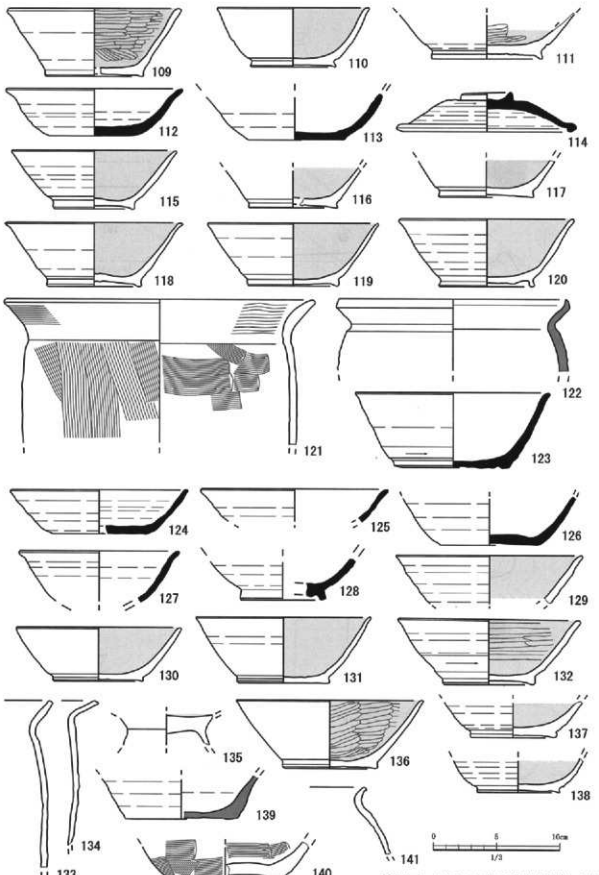
F・G-15グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、270cm×230cm以上の規模を持つ。SI49竪穴住居跡、SD39溝跡に切られ、南側を果樹、農業関連施設に撹乱される。地山を直接床面にしており、Ⅶ層付近まで掘り込まれる。南東隅でカマドを確認しているが、農業用井戸のパイプで壊されており構造は不明である。覆土は全般的に砂質で、未風化小～大亜円礫を微量に含む。Ⅴ層に近似する小細砂粒を点状に含む。上層には植物根を含む。遺物は住居内全体に散布するが、カマド付近に密集し大半が床面出土である。坏類は、須恵器と土師器のほか、赤焼土器が出土した。1点除き全て回転糸切で、切離し後ナデ調整が認められるものと無調整のものがある。甕類は、長胴甕においては土師器と赤焼土器がほぼ等量出土し、前者の切離しは殆どが編物圧痕で葉脈痕は微量である。小型甕は殆どが赤焼土器で、土師器は数片出土したに過ぎない。須恵器大型甕は数片出土したのみである。赤焼土器有台皿（157・158）、赤焼土器鉢（161）、赤焼土器捝れ鉢（163）が出土している。9世紀中葉と推定される。



第34図　SI18竪穴住居跡平面図



第35図　SI18竪穴住居跡遺物出土位置図



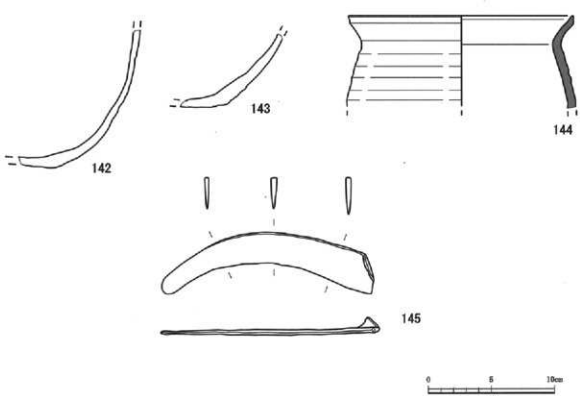
第36図　SI18竪穴住居跡出土遺物（1）

SI77竪穴住居跡（第42・43図　図版3・11・14　表3～6）

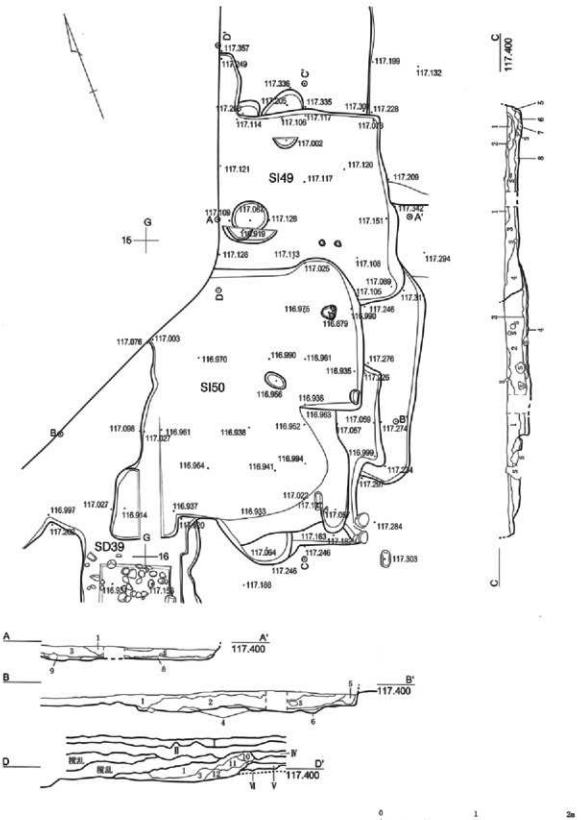
M・N-15グリッドに位置し、V層上面で確認した。隅丸方形を呈し、430cm×400cm以上の規模を持つ。後述するSI78竪穴住居跡との切り合いは確認できなかった。北西部が調査区外となる。中央部に貼床を持ち、Ⅶ層付近まで掘り込まれる。東側で、巨大な未風化亜円礫を使用して構築した煙道が延びるカマドを確認している。覆土は全般的に砂質で上層には未風化小～中亜円礫を微量に含む。遺物は余り多くなく、全体的に散布するが、カマド袖付近にやや密集する。坏類は全て回転糸切で、切離し後の調整は認められない。須恵器と赤焼土器のみで土師器は出土しなかった。甕類は長胴甕では、土師器と赤焼土器が出土するが、赤焼土器がより多く、かつ接合率が高い。小型甕は土師器と赤焼土器の両者が出土する。須恵器の大型甕が微量に出土している。また、南西隅から袋状鉄斧（174）が出土している。9世紀中葉と推定される。

SI78竪穴住居跡（第44図　図版3・12・14　表3～6）

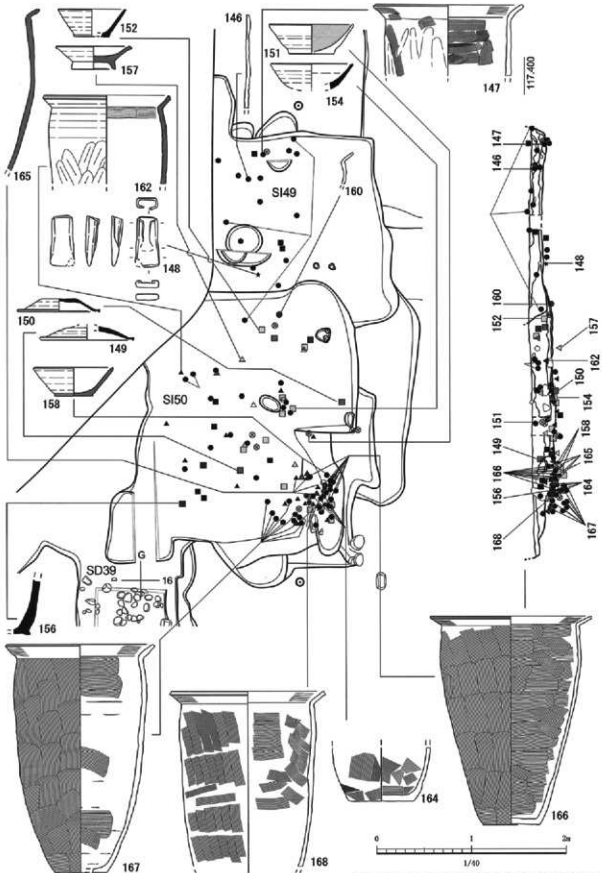
M-15・16に位置し、V層上面で確認した。南辺のみ検出しているが隅丸方形を呈すると推定される。380cm×60cm以上の規模を持つ。上面を耕作により削平され、北側が調査区外となる。地山（Ⅶ層）を直接床面にしている。南壁にカマドと推定される焼土を確認している。全般的にV層に近似する小シルト粒、カマドに起因する小焼土粒、未風化小～中亜円礫を含む。検出した部分が狭いことからカマドの構築材かもしれない。遺物は非常に少ない。坏類は全て回転糸切で、切離し後の調整は認められない。須恵器、赤焼土器が出土し、土師器は出土しない。甕類は長胴甕のみ確認され、全て赤焼土



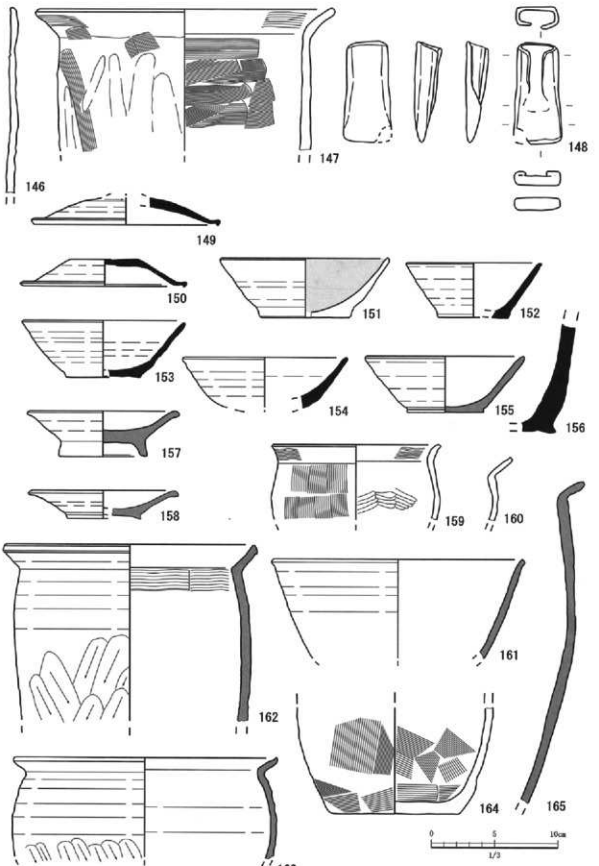
第37図　SI18竪穴住居跡出土遺物（2）



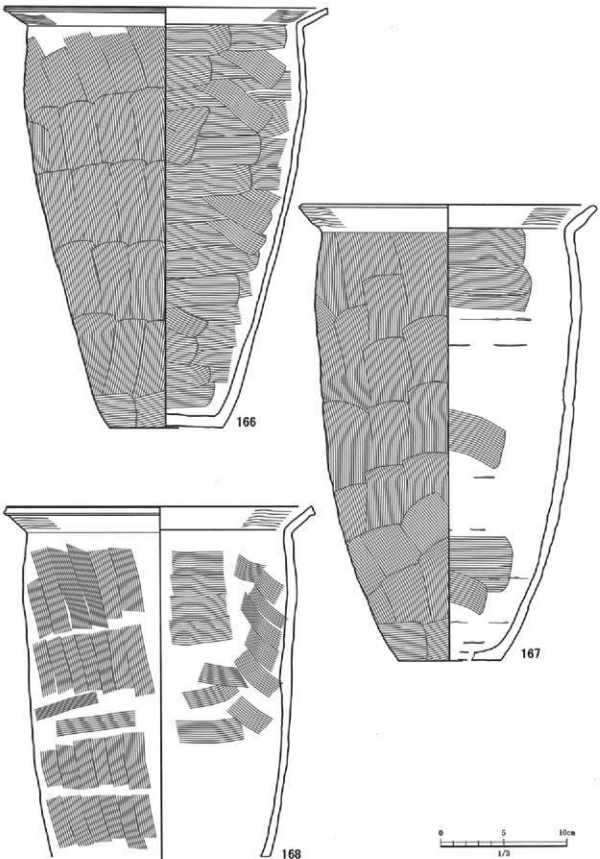
第38図　SI49・50竪穴住居跡平面図



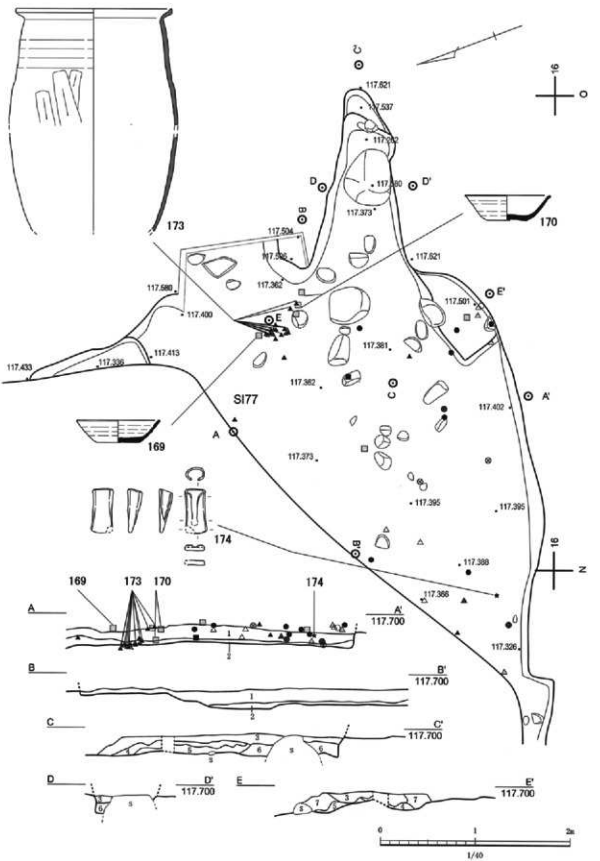
第39図　SI49・50竪穴住居跡遺物出土位置図



第40図　SI49・50竪穴住居跡出土遺物（1）



第41図　SI49・50竪穴住居跡出土遺物（2）



第42図　SI77竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図

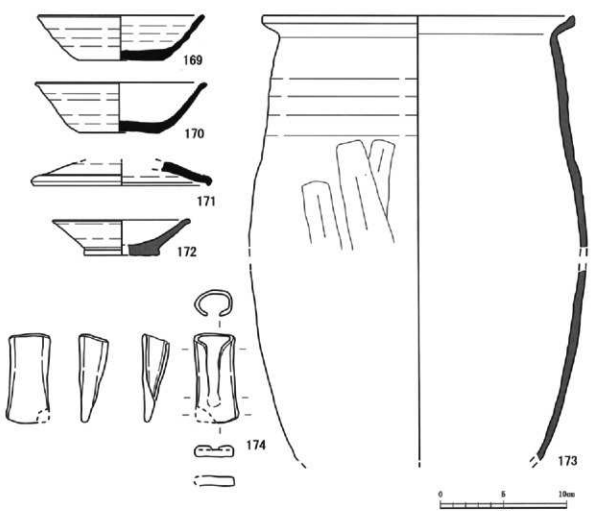
器である。その他、砥石（179）、金属製紡錘車（180）が出土している。9世紀中葉と推定される。

SI79竪穴住居跡（第45・46図　図版3・12・14　表3～6）

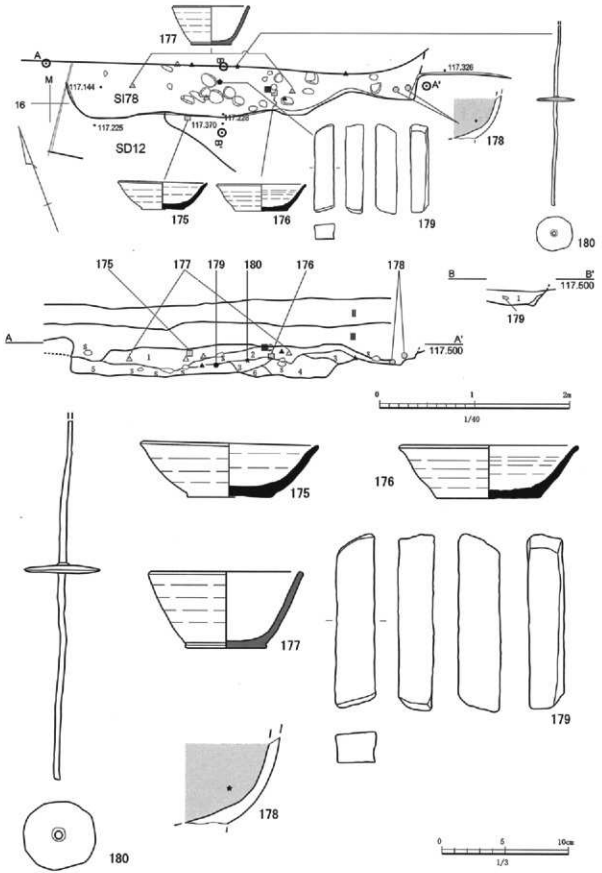
K-16・17グリッドに位置し、V層上面で確認した。隅丸方形を呈し、360cm×210cm以上の規模を持つ。後述するSI80竪穴住居跡との切り合いは確認できなかった。南側が調査区外となる。板状の炭化物を含む貼床を持ち、上面に炭化物の薄層を検出した。Ⅶ層まで掘り込まれる。西側に煙道らしき掘り込みが確認されたが、付近から袖や焼土は確認されなかった。SI80竪穴住居跡以外にも住居跡が重複しているのかもしれない。覆土は全般的に砂質で未風化亜円礫を微量に、V層に近似するシルト粒を微量に含む。出土遺物は微量で殆ど接合しない。概ね床面直上付近の出土である。坏類は全て回転糸切で、切離し後の調整は認められない。甕類は、長胴甕では、赤焼土器のみ出土している。金属製刀子（183）が1点出土している。9世紀中葉。

SI80竪穴住居跡（第45・46図　図版3・12　表3～6）

J-16・17に位置する。果樹により攪乱を受けており非常に遺存状態が悪い。規模・構造は不明である。覆土にV層に近似する小微砂～シルト粒、未風化亜円礫を微量に含む。出土遺物は僅少である。



第43図　SI77竪穴住居跡出土遺物



第44図　SI78竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物

坏類は数片の出土のみで、赤焼土器長胴甕の出土が目立つ。9世紀中葉か？

SI87竪穴住居跡（第47図　図版4・12　表3～6）

N・O-3・4グリッドに位置し、Ⅸ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、390cm×380cm以上の規模を持つ。地山（Ⅸ層）を直接床面にしている。遺物は殆ど出土しない。9世紀中葉と推定される。

SI89a竪穴住居跡（第48・49図　図版4・12　表3～6）

N・O-1グリッドに位置しⅤ層上面で確認した。ひどく撹乱されており、プランがはっきりしない。隅丸方形を呈すると推定され、450cm以上×330cm以上の規模を持つ。当初SI89で一括して登録していたが、覆土の堆積状況や遺物の出土状況から、後述するSI89b～dを含め4つの住居跡が重複していると推定される。北側は調査区外となる。地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。覆土にはⅤ層に近似する小～中シルト粒を点～雲状に含む。遺物は非常に少なく、東辺・南辺付近に散布するのみである。坏類は全て回転糸切で、切離し後ナデ調整が施される。甕類は、土師器及び赤焼土器長胴甕、赤焼土器小型甕が出土した。9世紀後葉と推定される。

SI89b竪穴住居跡（第48・49図　図版4・12　表3～6）

O-1・2グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、510cm以上×290cm以上の規模を持つ。果樹によりかなり撹乱され、SI89a竪穴住居跡に切られる。地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。東側でカマドを検出したが、撹乱により構造は不明である。覆土はⅤ層に近似する小～中シルト粒を点～雲状に含む。遺物は非常に少ない。坏類は全て回転糸切で、切離し後にナデ調整が施されるものと無調整のものがある。なお、土師器有台坏（189）は底部外面に墨書が書かれ、また、胎土色調ともに赤焼土器に近似する。甕類では土師器主体のようである。9世紀中葉と推定される。

SI89c竪穴住居跡（第48・49図　図版4・12　表3～6）

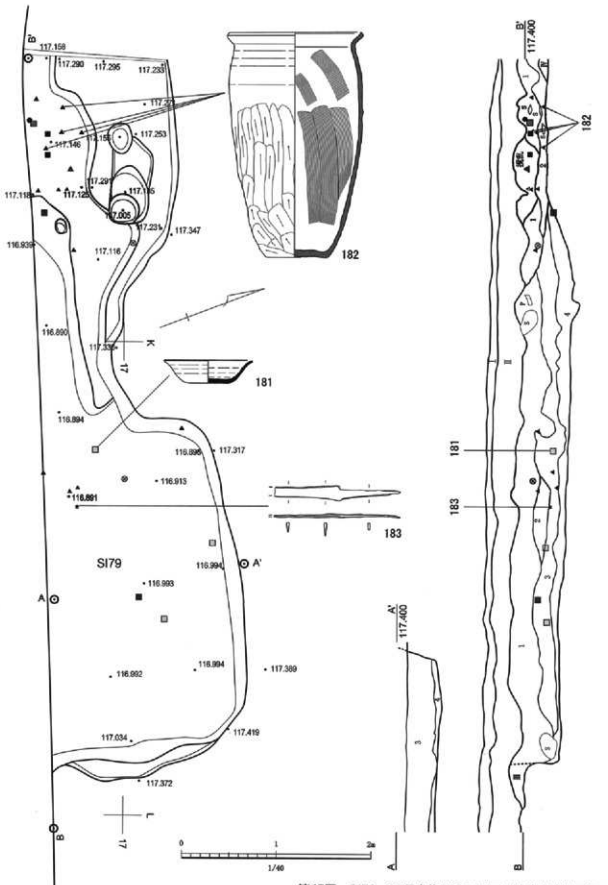
M・N・O-1・2グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、470cm×380cmの規模を持つ。果樹によりかなり撹乱され、SI89a・b竪穴住居跡を切る。地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。覆土はⅤ層に近似する小～中シルト粒を点～雲状に含む。遺物は西側に密集する。赤焼土器の甕類のみ出土している。長胴甕は丸底で、内外面にタタキのあるもの（193）と、平底で外面にケズリ、内面に顕著なナデが施されるもの（194）の2種ある。9世紀後葉と推定される。

SI89d竪穴住居跡（第48図　図版4　表3・4・6）

M-2グリッドに位置する。かなりの撹乱を受け、SI89a～c竪穴住居跡との切り合いは不明である。南側は調査区外となる。赤焼土器長胴甕の破片が数片出土したのみである。9世紀代と推定される。

SI21竪穴住居跡（第50・51図　図版2・12・13　表3～6）

G・H-16グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、310cm×310cmの規模を持つ。貼床を持ち、中央部分に炭化物の集中部分がある。Ⅶ層まで掘り込まれている。覆土は最上層に植物根を含み、上層では未風化中亜円礫を微量に含む。全般的にⅤ層に近似した小～中シルト粒を含むが、中層では粒が大きい。遺物は広範囲に分布するが、余り接合しない。殆どが覆土上層から出土し、床面付近からの出土は南辺付近に限られる。須恵器坏類及び赤焼土器坏類は全て回転糸切で、土師器坏

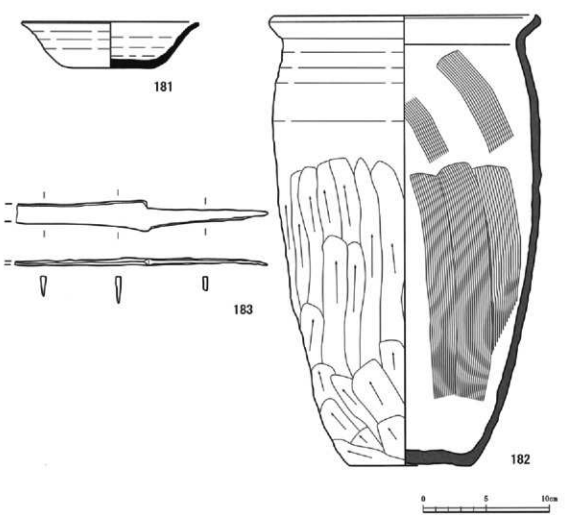


第45図　SI79・80竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図

類は静止糸切の土師器有台坏（202）を除き同様である。切離し後にナデ調整が施されるものと無調整のものがある。赤焼土器皿類が少量出土する。甕類は赤焼土器長胴甕が主体で、土師器長胴甕は僅少である。小型甕は殆ど出土しなかったが、赤焼土器が主で、土師器は微量である。内面のアテ具が石と推定される須恵器大甕が、南西部を中心に出土する。甕類で底部の形状を確認できる個体はなかった。9世紀中葉と推定される。

SI73竪穴住居跡（第52図　図版3・12・13　表3～6）

Ⅰ・J-1グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、310cm以上×170cm以上の規模を持つ。遺存状態が悪く、東側をSK88土坑（井戸か？）に切られる。北側が調査区外になる。貼床を構築している。掘り込みはⅤ層中で終わる。南西隅にカマドが確認されたが、撹乱され、構造は不明である。覆土はⅤ層に近似する小礫砂～シルト粒を含む。遺物は非常に少なく、殆ど接合しない。坏類では須恵器と赤焼土器が出土した。底部切離しは回転糸切で、切離し後調整は施されない。赤焼土器無台坏（210）はカマド付近からの出土である。また、須恵器高坏脚部（207）が出土している。甕類



第46図　SI79・80竪穴住居跡出土遺物

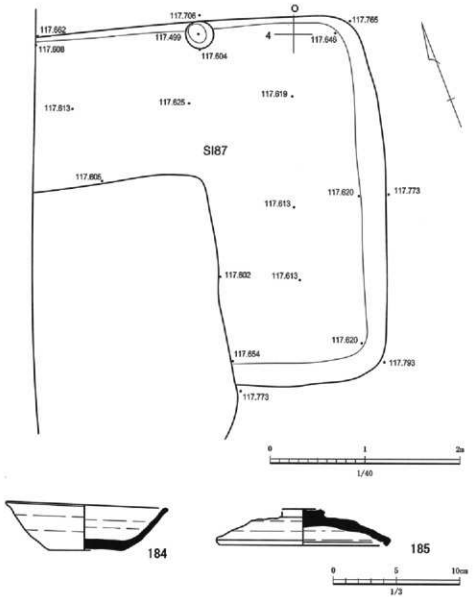
は土師器及び赤焼土器の長胴甕と須恵器の大型甕を確認している。赤焼土器長胴甕はカマド付近から出土する。9世紀後葉と推定される。

SI83竪穴住居跡（第53図　図版4・13　表3～6）

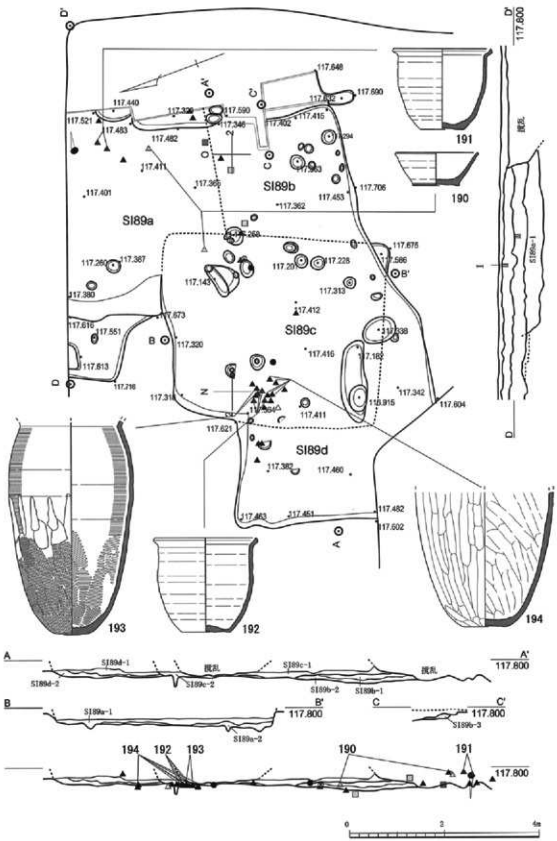
L-2グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、350cm×290cmの規模を持つ。上面が削平されており、北東半が調査区外となる。地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。覆土は判然としないが、均質で礫等を含まない。遺物は図化した赤焼土器壺（211）のみである。9世紀中葉から後葉と推定される。

SI91a竪穴住居跡（第54・55図　図版4・13　表3～6）

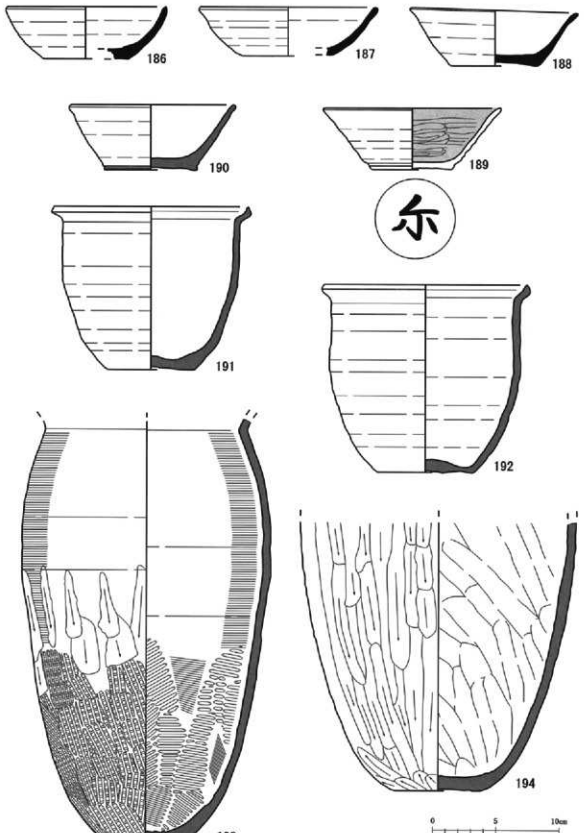
N・O-14・15グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、310cm×260cmの規模を持



第47図　SI87竪穴住居跡平面図・出土遺物



第48図　SI89竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図



第49図　SI89竪穴住居跡出土遺物

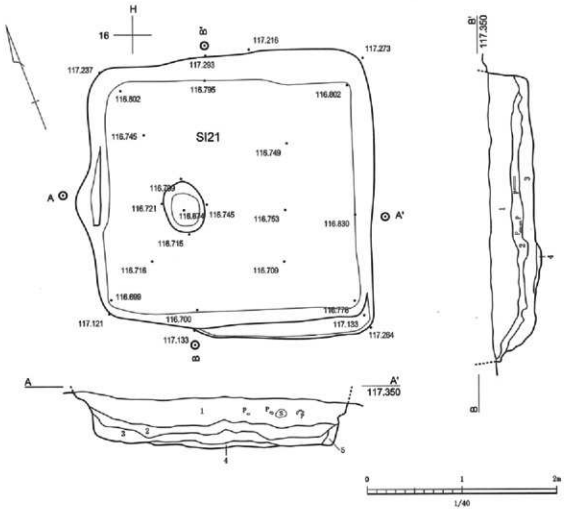
つ。上面が削平されており、SI91b竪穴住居跡を切る。地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。覆土は全般的に砂質で、未風化小亜円礫を微量に含む。出土遺物は少なく、南辺付近に散布する。概ね床面出土である。坏類では赤焼土器坏（217）、天井部外面に墨書のある坏蓋（216）が出土している。甕類では、赤焼土器小型甕・長胴甕とが出土している。9世紀後葉と推定される。

SI91b竪穴住居跡（第54・55図　図版4・13・14　表3～6）

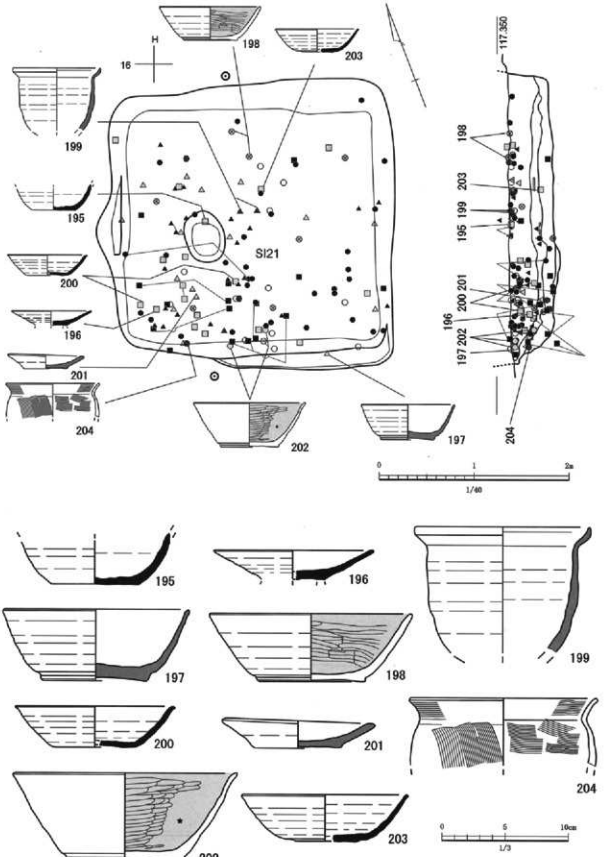
N・O-14グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、340cm以上×340cmの規模を持つ。遺存状態が悪く、SI91a竪穴住居跡に切られる。東側は調査区外となる。地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。覆土は全般的に砂質で、未風化小亜円礫を微量に含む。遺物は少なく、数片にとどまる。須恵器無台坏（212）、須恵器坏蓋（213）、砥石（214）が出土している。9世紀後葉と推定される。

SI69竪穴住居跡（第56・57図　図版3・13・14　表3～6）

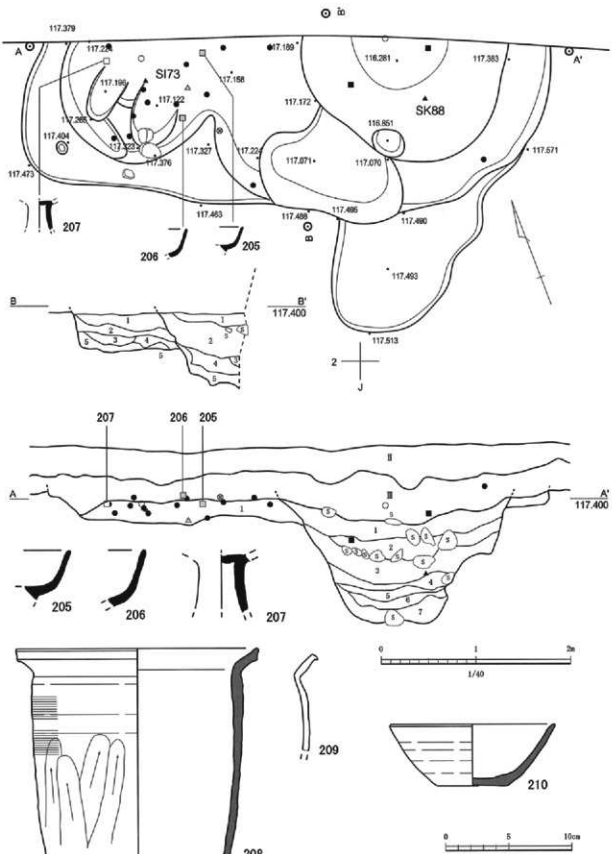
H・I-2グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。隅丸方形を呈し、450cm×390cmの規模を持つ。地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。カマドは東壁に位置し、煙道が延びるようである。焚き口付近に焼土が確認されている。覆土は地山（Ⅴ層）に近似する小～中礫砂粒を含む。最下層の遺物の出土



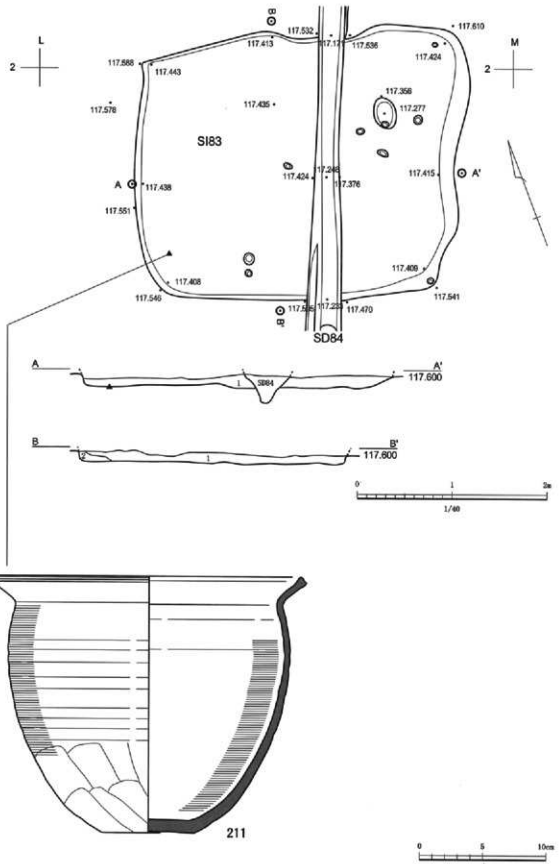
第50図　SI21竪穴住居跡平面図



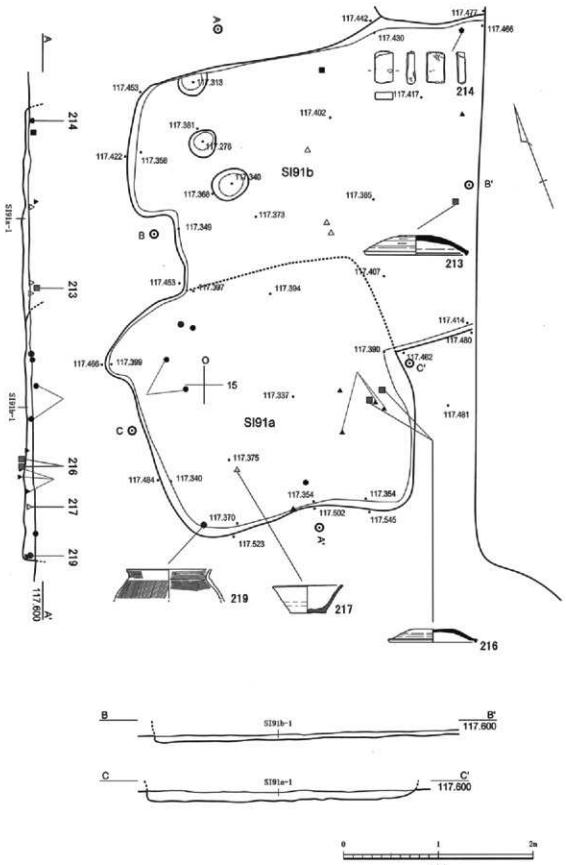
第51図　SI21竪穴住居跡遺物出土位置図・出土遺物



第52図　SI73竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物



第53図　SI83竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図・出土遺物



第54図　SI91竪穴住居跡平面図・遺物出土位置図

地点を記録できなかったため平面図に表していないが、上層では、概ね住居内全域に遺物が散布し、下層ではカマド付近に密集する。全ての器種において、須恵器の比率が非常に低い。坏類は全て回転糸切で、切離し後に調整が施されない。赤焼土器坏の出土が目立つ。甕類では、長胴甕では、大半が土師器で、赤焼土器が少量含まれる。赤焼土器では、丸底で内外面にタタキが施される長胴甕の底部（228）が出土している。小型甕は全て赤焼土器となる。10世紀前葉と推定される。

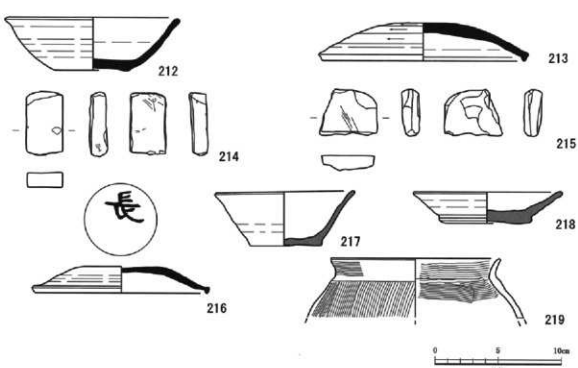
5　その他の遺構及び遺構外出土遺物

SK30土坑（第58図　図版4・14　表3・5）

H-15グリッドに位置する。後述するSK22に隣接し、規模、遺物の出土状況とも類似する。検出面付近で、内部に赤色塗料が付着した須恵器無台坏（230）が出土した。坏類では底部切離しが回転ヘラ切りのものと回転糸切りのものが混在し、甕類では、土師器と赤焼土器の両者が出土するが、後者がより多く出土する。9世紀中葉と推定される。

SK22土坑（第59図　図版4・14　表3・5）

H・I-15・16グリッドに位置する。多量の土器が出土したが、遺構覆土上層では殆どが小破片で接合しない。坏類では底部切離しが回転ヘラ切りのものと回転糸切りのものが混在し、甕類では、土師器と赤焼土器の両者が出土するが、前者がより多く出土する。床面から土師器長胴甕（231）が出土した。8世紀末葉から9世紀前葉と推定される。

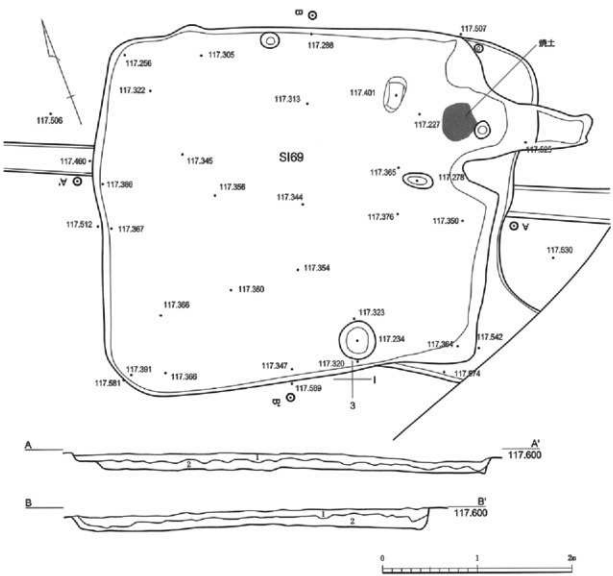


第55図　SI91竪穴住居跡出土遺物

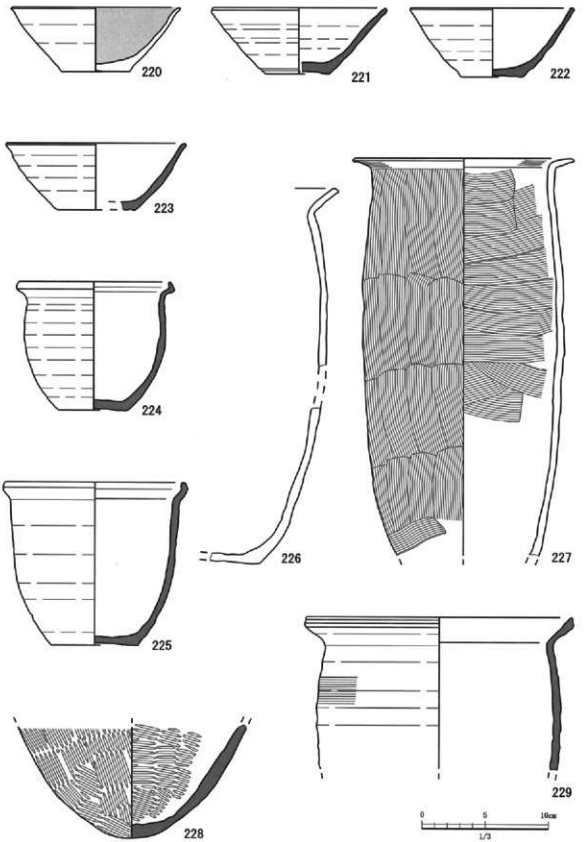
遺構外出土遺物（第59図　図版14　表5）

遺構外（N-2グリッド）から用途不明の金属製品（232）が出土している。上部に孔が通され、下部側面が一部欠損している。装飾品か？

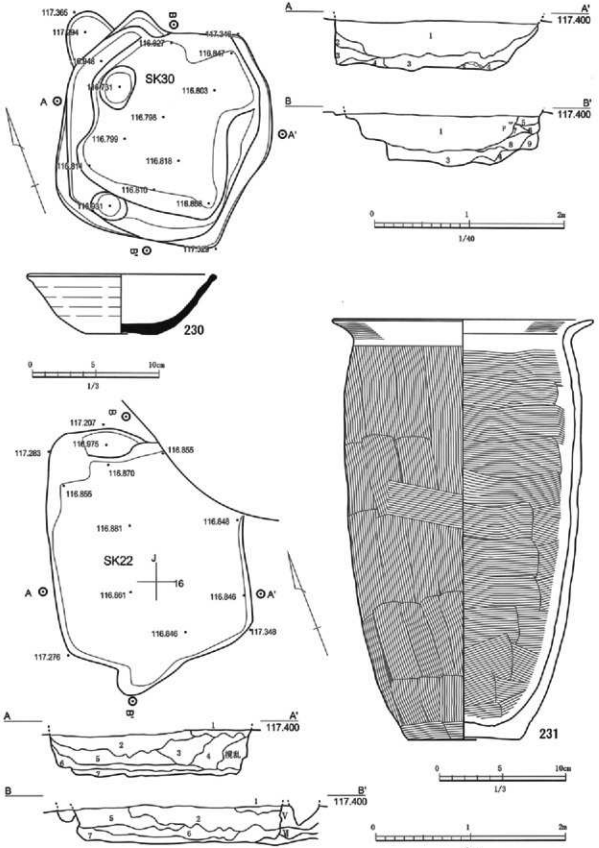
その他、G・H-8～11グリッド付近の遺物包含層から8世紀中葉から9世紀中葉を主体とする土器類が多数出土している。この包含層は、当初、河川跡と考えたが、北側と南側の検出面の高さが大きいこと、断面観察で水流の痕跡が認められないことから、遺物包含層としている。底面では、植物根起因と推定される多数の凹凸が認められた。



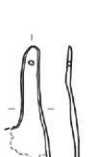
第56図　SI69竪穴住居跡平面図



第57図　SI69竪穴住居跡出土遺物



第58図　SK30・22土坑平面図・出土遺物



232

第59図　遺構外出土遺物

表3　土層注記（1）

遺構番号	層位	土　色	しまり	注　記	挿図
SI7	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～中未風化亜円礫あり(2%)。小炭化物あり(1%)。遺物含む。	13
SI7	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に富む(20%)。	13
SI7	3	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点状にあり(1%)。	13
SI7	4	10YR3/3暗褐色シルト	密	中～大シルト粒(10YR4/4褐色)点状に含む(6%)。	13
SI7	5	10YR3/3暗褐色シルト	密	中～大シルト粒(10YR4/4褐色)雲状に富む(20%)。	13
SI7	6	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点状にあり(1%)。	13
SI7	7	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点状にあり。遺物含む。	13
SI14	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点状に含む(5%)	29
SI14	2	5YR5/6明赤褐色シルト	密	小シルト粒(10YR3/3暗褐色)点状に含む(5%)	29
SI14	3	10YR3/3暗褐色シルト	密	小焼土粒(5YR5/6明赤褐色)点状に含む(5%)	29
SI14	4	10YR3/3暗褐色シルト	密	小焼土粒(5YR5/6明赤褐色)点状に含む(5%)。小シルト粒(10YR4/4褐色)点状に含む(5%)	29
SI14	5	10YR3/3暗褐色シルト	密	小焼土粒(5YR5/6明赤褐色)点状に含む(5%)。小～中焼土粒(5YR5/6明赤褐色)点状に含む(5%)	29
SI14	6	10YR4/3にぶい黄褐色シルト	密	小焼土(5YR5/6明赤褐色)点状に含む(5%)。カマド袖?	29
SI14	7	10YR4/4褐色シルト	密	小シルト(10YR3/3暗褐色)点状に含む(5%)。	29
SI14	8	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト(10YR4/4褐色)点状にあり(2%)	29
SI18	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～大未風化亜円礫亜角礫あり。小炭化物あり(1%)。	34
SI18	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～大未風化亜円礫亜角礫あり。小炭化物あり(1%)。遺物含む。	34
SI18	3	10YR2/3黒褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に含む(5%)。	34
SI21	1	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	中礫物疎あり。中～五未風化亜円礫あり(2%)。遺物含む。中炭化物粒あり(1%)。小～中シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に含む(5%)。	50
SI21	2	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	中未風化亜円礫あり(1%)。小シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に含む(10%)。遺物含む。	50
SI21	3	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	中～大シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に含む(15%)。遺物含む。	50
SI21	4	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)雲状にあり。中央付近下層床面付近に炭化物の薄層あり。	50
SI21	5	10YR1.7/1黒色シルト	密	均質。地山（短層）。	50
SI27	1	10YR3/3暗褐色微砂	密	小礫あり。	22
SI27	2	10YR3/3暗褐色微砂	密	未風化中～大亜円礫あり。小微砂粒(10YR4/4褐色)点状にあり。	22
SI27	3	10YR3/3暗褐色シルト	密	5YR5/6明赤褐色小焼土粒含む(10%)	22
SI49	1	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	小～大植物根あり。未風化大亜礫円あり(2%)。果樹による撹乱。	38
SI49	2	10YR2/2黒褐色シルト	密	小シルト粒(10YR3/3暗褐色)点～雲状にあり(2%)。細植物根あり。	38
SI49	3	10YR2/3黒褐色微砂質シルト	密	未風化大亜円礫あり(2%)。細植物根あり。遺物含む。	38
SI49	4	10YR2/3黒褐色微砂質シルト	密	未風化大亜円礫あり(1%)。小炭化物粒あり(1%)。細植物根あり。	38
SI49	5	10YR4/3にぶい黄褐色細砂	密	均質。地山（V層）。	38
SI49	6	10YR2/3黒褐色微砂質シルト	密	小礫砂粒(10YR4/3)雲状にあり(1%)。遺物含む。周溝か?	38
SI49	7	10YR4/3にぶい黄褐色細砂	密	小シルト粒(10YR2/3黒褐色)点状に含む(5%)。	38
SI49	8	10YR2/3黒褐色微砂質シルト	密	小微砂粒(10YR4/3にぶい黄褐色)雲状に富む(20%)。貼り床。	38
SI50	1	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	小～大植物根あり。未風化大亜円礫あり(2%)。果樹による撹乱。	38
SI50	2	10YR2/3黒褐色細砂質シルト	密	未風化小～中亜円礫あり(1%)。遺物含む。小シルト粒(10YR4/3にぶい黄褐色)点状にあり(1%)。	38
SI50	3	10YR3/3黒褐色細砂質シルト	密	小シルト粒(10YR4/3にぶい黄褐色)点～雲状に含む(10%)。貼り床。	38

表3　土層注記（2）

遺構番号	層位	土　色	しまり	注　記	挿図
SI50	4	10YR2/3暗褐色微砂質シルト	密	来風化小～石亜円礫に富む。地山（V層）	38
SI63	1	10YR2/2黒褐色細砂質シルト	密	小植物根あり。細～小礫あり。	16
SI63	2	10YR3/2黒褐色細砂質シルト	密	小～大植物根あり。細～小礫あり。遺物含む。小細砂粒（10YR4/3にぶい黄褐色）点～雲状にあり（2%）	16
SI63	3	10YR3/2黒褐色細砂質シルト	密	小～大植物根あり。	16
SI63	4	10YR2/2黒褐色微砂質シルト	密	小植物根あり。細礫あり。	16
SI63	5	10YR3/3暗褐色細砂質シルト	密	小植物根あり。細～小礫あり。	16
SI64	1	10YR3/2黒褐色微砂質シルト	密	大植物根あり。細礫あり。小細砂粒（10YR4/4褐色）点状に含む（5%）。	19
SI64	2	10YR2/2黒褐色微砂質シルト	密	中植物根あり。来風化中～大亜円礫あり（1%）。小細砂粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（10%）。	19
SI64	3	10YR4/4褐色細砂	密	小微砂質シルト粒（10YR2/2黒褐色）管状に含む（5%）。	19
SI69	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小微砂粒（10YR4/4褐色）点状にあり（2%）。小～中植物根あり（1%）。遺物含む。	57
SI69	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～中微砂粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（10%）	57
SI69	3	10YR4/4褐色微砂	密	地山（V層）	57
SI71	1	10YR3/3暗褐色細砂質シルト	密	細礫あり。小微砂質シルト粒（10YR4/4褐色）点状にあり（2%）。遺物わずかに含む。	25
SI71	2	10YR3/3暗褐色細砂質シルト	密	小微砂質シルト（10YR4/4褐色）点～雲状に富む（40%）。西側に偏る。遺物含まない。	25
SI71	3	10YR3/3暗褐色細砂質シルト	密	小微砂質シルト粒（10YR4/4褐色）雲状に含む（5%）。遺物含まない。	25
SI71	4	10YR3/3暗褐色細砂質シルト	密	細～小微砂質シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状にあり（2%）。遺物含む。	25
SI73	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（5%）。小礫あり（1%）	52
SI73	2	10YR2/3暗褐色シルト	密	小～大シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（10%）。	52
SI73	3	10YR2/3暗褐色シルト	密	小微砂質シルト粒（10YR4/4褐色）点状に含む（10%）。	52
SI73	4	10YR3/3暗褐色シルト	密	小微砂質シルト粒（10YR4/4褐色）点状に含む（5%）。	52
SI73	5	10YR2/2黒褐色シルト	密	細～小微砂質シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状にあり（2%）。	52
SI74	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（5%）。小礫あり（1%）	26
SI74	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～大シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（10%）。	26
SI77	1	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	来風化小～中亜円礫あり（1%）。遺物含む。	42
SI77	2	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）点状にあり（1%）。小炭化物粒点状にあり（1%）。	42
SI77	3	7.5YR5/3にぶい褐色シルト	密	小礫あり。小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）点状にあり（1%）。	42
SI77	4	5YR5/6明赤褐色微砂	密	小シルト（10YR3/3暗褐色）点状にあり（2%）。小礫あり。小炭化物あり（1%）。	42
SI77	5	10YR5/3にぶい黄褐色シルト	密	小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）点状にあり（1%）。	42
SI77	6	10YR5/3にぶい黄褐色微砂	密	小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）雲状に富む（30%）。	42
SI77	7	10YR5/3にぶい黄褐色微砂	密	小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）雲状に富む（40%）。	42
SI78	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～中シルト粒（10YR4/3にぶい黄褐色）点状に含む（5%）。小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）点状にあり（1%）。	44
SI78	2	10YR3/2黒褐色シルト	密	小シルト粒（10YR4/4褐色）点状にあり（2%）。地山崩落土。	44
SI78	3	10YR3/3暗褐色シルト	密	小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）点状に富む（20%）。	44
SI78	4	5YR4/4にぶい赤褐色シルト	密	小微砂粒（10YR3/3暗褐色）雲状にあり（2%）。	44
SI78	5	10YR3/2黒褐色微砂	密	小微砂粒（10YR4/4褐色）点状に含む（5%）。	44
SI78	6	10YR3/4暗褐色微砂	密	小焼土粒（5YR5/6明赤褐色）点状にあり（2%）。	44
SI79	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	細礫あり。遺物含む。	45
SI79	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	柱圧均質	45
SI79	3	10YR3/3暗褐色微砂	密	来風化小～中亜円礫あり。小植物根あり。下部に小～中炭化物粒、小～中シルト粒（10YR4/3にぶい黄褐色）点状にあり。	45
SI79	4	10YR2/2黒褐色シルト	密	中～大炭化物床状に含む（5%）。貼り床。	45
SI80	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小細砂粒（10YR4/3にぶい黄褐色）あり（1%）。	45
SI80	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～中微砂粒（10YR4/4褐色）点状に含む（15%）。	45
SI81	1	10YR3/3暗褐色細砂	密	来風化小～中円礫含む（15%）。植物根あり。	17
SI81	2	10YR3/3暗褐色微砂	密	来風化中亜円礫あり。小シルト粒（10YR4/4褐色）点状にあり。遺物含む。小炭化物粒点状にあり（1%）。	17
SI81	3	10YR4/4褐色微砂	密	小微砂粒（10YR3/3暗褐色）点状に含む（5%）。貼り床。	17
SI82	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	ほぼ均質	18
SI83	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒（10YR4/4褐色）点状にあり（2%）。	53
SI83	2	10YR4/4褐色シルト	密	均質。地山（V層）	53
SI85	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（10%）。	20
SI85	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～中シルト粒（10YR4/4褐色）点～雲状に含む（15%）。	20
SI85	3	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒（10YR4/4褐色）点状にあり（2%）。	20
SI85	4	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒（10YR4/4褐色）雲状に含む（5%）。	20
SI85	5	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～大シルト粒（10YR4/4褐色）点状に富む（20%）。貼り床。	20
SI85	6	10YR3/4暗褐色シルト	密	偏大焼土塊（5YR4/8赤褐色）すこぶる富む（80%）。炭化物粒あり。遺物含む。カマド内壁か？	20

表3　土層注記（3）

遺構番号	層位	土　色	しまり	注　記	挿図
SI85	7	10YR3/4暗褐色シルト	密	中焼土塊(5YR4/8赤褐色)あり(3%)。炭化物粒あり(3%)。多量の遺物含む。カマド崩落土？	20
SI85	8	10YR2/3黒褐色シルト	密	大焼土塊(5YR4/8赤褐色)あり(5%)。中焼土塊(5YR4/8赤褐色)すこぶる富む(50%)。焼土は焚き口方向にいくにつれ減少する。遺物含む。	20
SI85	9	10YR3/4暗褐色シルト	密	極大焼土塊(5YR4/8赤褐色)あり(1%)。炭化物粒あり(1%)。地山（V層）に近似する。カマド袖か？	20
SI86	1	10YR3/3暗褐色微砂	密	粗砂あり。未風化中亜円礫あり(1%)。砂ブロック(10YR4/4)雲状に富む(30%)。	28
SI89a	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～中シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に含む(5%)。	28
SI89a	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点状に含む(5%)。	48
SI89b	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に富む(20%)。	48
SI89b	2	10YR4/4褐色シルト	密	小シルト粒(10YR3/3暗褐色)点～雲状に含む(15%)。	48
SI89b	3	10YR4/3にぶい黄褐色微砂	密	小焼土粒(5YR5/6明赤褐色)点状に富む(20%)。中炭化物粒あり(2%)。	48
SI89d	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4暗褐色)点状に含む(10%)。	48
SI89d	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4暗褐色)点状に含む(6%)。遺物含む。	48
SI91a	1	10YR3/2黒褐色微砂	密	小細砂粒(10YR4/4褐色)点状に含む(5%)。未風化小～中亜円礫あり。	54
SI91b	1	10YR3/2黒褐色微砂	密	小細砂粒(10YR4/4褐色)点状に含む(5%)。未風化小～大亜円礫に富む(15%)。	54
SK22	1	10YR5/3にぶい黄褐色シルト	密	細植物根あり。耕作土。	58
SK22	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	細植物根あり。小シルト粒(10YR4/3褐色)雲状に富む(20%)。	58
SK22	3	10YR3/3暗褐色シルト	密	細植物根あり。小～中シルト(10YR4/3褐色)雲状に富む(40%)。	58
SK22	4	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	細植物根あり。中シルト粒(10YR4/3褐色)雲状に富む(40%)。シルト粒はカベ側に偏る。	58
SK22	5	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	細植物根あり。小～中シルト粒(10YR4/3褐色)雲状に富む(40%)。	58
SK22	6	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	細植物根あり。小～中シルト粒(10YR4/3褐色)雲状に含む(20%)。有機質に富む小シルト粒(10YR2/1黒色)点状にあり。	58
SK22	7	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/3褐色)点状にあり(1%)。上面に有機質に富むシルト(10YR1.7/1黒色)の薬層あり。	58
SK30	1	10YR3/2黒褐色微砂質シルト	密	小風化礫あり(1%)。小炭化物粒点状にあり(1%)。小微砂質シルト粒(10YR3/3暗褐色)点状にあり(2%)。遺物含む。細植物根あり。	58
SK30	2	10YR3/2黒褐色微砂質シルト	密	小風化礫あり(1%)。小微砂質シルト粒(10YR3/3暗褐色)雲状に含む(20%)。細植物根あり。	58
SK30	3	10YR3/2黒褐色微砂質シルト	密	小～中微砂質シルト粒(10YR3/3暗褐色)点～雲状に含む(20%)。	58
SK30	4	10YR3/3暗褐色微砂質シルト	密	均質。地山（Ⅶ層）	58
SK30	5	10YR3/2黒褐色微砂質シルト	密	小細砂粒(10YR4/3にぶい黄褐色)雲状に含む(15%)。	58
SK30	6	10YR4/3にぶい黄褐色細砂	密	小微砂質シルト粒(10YR3/2黒褐色)点状に含む(5%)。	58
SK30	7	10YR3/2黒褐色微砂質シルト	密	小細砂粒(10YR4/2にぶい黄褐色)点状にあり(1%)。	58
SK30	8	10YR3/2黒褐色微砂質シルト	密	小～大細砂粒(10YR4/3にぶい黄褐色)点～雲状に富む(30%)。	58
SK30	9	10YR2/1黒色シルト	密	小細砂粒(10YR4/3にぶい黄褐色)点～管状にあり(2%)。地山（Ⅶ層）。	58
SK88	1	10YR3/3暗褐色シルト	密	小シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に含む(5%)。小礫あり(1%)	52
SK88	2	10YR3/3暗褐色シルト	密	小～大シルト粒(10YR4/4褐色)点～雲状に含む(10%)。	52
SK88	3	10YR3/4暗褐色シルト	密	細礫あり。細砂板状に含む。	52
SK88	4	10YR2/1黒色礫砂	密	細礫あり。	52
SK88	5	10YR2/1黒色シルト	密	細砂混じる。	52
SK88	6	10YR2/2黒褐色シルト	密	細砂混じる。	52
SK88	7	10YR3/3暗褐色砂	密	小シルト粒(10YR2/2黒色)点状に含む(5%)。未風化小亜円礫含む。	52

表4　竪穴住居跡観察表（1）

遺構番号	位置	重複関係	遺存状態	規模(cm)	平面形	堆積土	床	カマド	時期	備　考	挿図	図版
SI7a	L・M—16・17	SI7b・cに上層が切られる。	南側調査区外。	530 × 350 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積する。地山（Ⅴ層）に近似する小～大シルト粒を点状～斑状に含む。	明確な貼床を持たないが、凹上面と判断される。	東辺あるいは南辺に位置すると推定される。			12	2
SI7b	L—16・17	Ⅴ層上面で確認。SI17cに切られる。	上層は耕作土により撹乱される。南側調査区外。	340 × 300 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積する。未風化小～中亜円礫あり。	地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。	南辺に位置すると推定される。	8世紀中葉		12	2
SI7c	L・M—16・17	Ⅴ層上面で確認。	上層は耕作土により撹乱される。南側調査区外。	530 以上× 290 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積する。未風化小～中亜円礫あり。	確認出来なかった。	南辺に位置すると推定される。	9世紀後葉		12	2
SI14	J・K—15・16	Ⅴ層上面で確認。SD13に切られる。	北側調査区外。	530 × 370 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、地山（Ⅴ層）に近似する小～中シルト粒、カマド起因の小～中焼土粒を点状に含む。	地山（Ⅶ層）を直接床面にしているが、かなりの範囲で焼けている。	南カベに巨礫を使用したカマドあり。但し、SD13に壊され、構造は不明。	9世紀中葉	他の住居跡に比べ面積が大きい。	28	2
SI18	M・N—16・17	Ⅴ層上面で確認。	上面を植物根に撹乱される。南西隅調査区外。	370 × 360	隅丸方形	概ね水平に堆積する。上層に未風化小～大亜円礫・亜角礫あり。下層に地山（Ⅴ層）に近似する小シルト粒点～斑状に含む。	地山（Ⅶ層）を直接床面にしている。	北側に若干の焼土が確認されたが、カマドらしき構築物は確認出来なかった。	9世紀中葉		33	2
SI21	G・H—16	Ⅴ層上面で確認。		310 × 310	隅丸方形	概ね水平に堆積する。最上層には植物根あり。上層には未風化中亜円礫あり。全般的に小～中シルト粒を含むが、中層では粒が大きい。	貼床を持ち、中央部分に炭化物の集中部分がある。	南東隅で煙土ブロックを確認するが、カマドらしき構築物は確認出来なかった。	9世紀後葉	他の住居跡に比べ検出面からの深度が大きい。SI71と近似。	49	2
SI27	G・H—14	Ⅴ層上面で確認。SI49に切られる。	一部試掘坑で撹乱。東側調査区外。	470 × 400 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、全般的に砂質で未風化中～大亜円礫あり。	地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。	南辺中央で確認するも、遺存状態が悪く、構造は確認出来なかった。	8世紀末から9世紀前葉		21	2
SI49	G-14・15	Ⅴ層上面で確認。SI27・50を切る。	南西部果樹により撹乱される。西側調査区外。	210 × 200 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、全般的に砂質である。覆土に未風化大亜円礫あり。地山（Ⅴ層）に近似する小礫砂粒点状に含む。上層には植物根含む。	貼床を構築している。	北カマド。果樹により撹乱され、構造は不明。煙道が延びていた可能性がある。	9世紀中葉		37	2
SI50	F・G-15	Ⅴ層上面で確認。SI49・SD39に切られる。	南側を植物根により撹乱される。	270 × 230 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、全般的に砂質である。覆土に未風化小～大亜円礫あり。地山（Ⅴ層）に近似する小礫砂粒点状に含む。上層には植物根含む。	地山（Ⅴ層）を直接床面にしている。	南東カマド。但し果樹により撹乱され構造は確認出来なかった。	9世紀中葉		37	2

表4　竪穴住居跡観察表（2）

遺構番号	位置	重複関係	遺存状態	規模(cm)	平面形	堆積土	床	カマド	時期	備　考	挿図	図版
SI63	G・H−7	V層上面で確認。	上面を植物撹に攪乱される。西側調査区外。	340 × 240 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、全般的に砂質で未風化細〜小亜円礫あり。覆土中に、被熱した巨岩あり。	貼床らしき硬化面（V層）があるが突きかためたような感触はない。	東側に焼土のブロックがあるが、袖等は確認できなかった。	8世紀中葉	焼土ブロック付近での遺物の出土が多い。	15	2
SI64	H−5・6	V層上面で確認。	一部試掘坑で撹乱。東側調査区外。	460 × 170 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、全般的に砂質である。覆土に未風化小〜中亜円礫あり。地山（V層）に近似する小礫砂粒点状に含む。上層には植物痕含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	不明。	8世紀中葉		18	2
SI69	H・I−2	V層上面で確認。		450 × 390	隅丸方形	概ね水平に堆積し、地山（V層）に近似する小〜中礫砂粒含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	北東隅で確認したが、耕作土で撹乱を受け、構造がはっきりしない。	10世紀前葉	最下層の遺物の出土地点未記録。	56	3
SI71	I−16	V層上面で確認。SD26に切られる。		330 × 320	隅丸方形	最上層は概ね水平に堆積するが、それ以下の層では、やや波状を呈する。中位の層では遺物が出土しない。地山（V層）に近似する細〜小礫砂質シルト粒点〜雲状に含む。	地山（VII層）を直接床面にしている。	東側のSD26との切り合い付近。壊されており、構造は不明。	8世紀末から9世紀前葉	SI21と似る。	24	3
SI73	I・J−1	V層上面で確認。SK88に切られる。	北側調査区外。東側が攪乱されている。	310 以上× 170 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積する。地山（V層）に近似する小礫砂〜含む。シルト粒含む。	貼床を構築している。	南カマド。攪乱され構造は不明。	9世紀後葉	高坏脚部（207）が出土している。	51	3
SI74	J・K−1	V層上面で確認。SD75に切られる。	北側調査区外。	380 以上× 220 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積する。地山（V層）に近似する小〜大シルト粒点〜雲状に含む。	貼床を構築している。	南カマド。煙道を確認。	8世紀末から9世紀前葉	煙道内より完形の坏2点（48・51）、鉄鏃1点（52）出土。	25	3
SI77	M・N−15	V層上面で確認。SI78に切られるか？	北西部調査区外。	430 × 400 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、全般的に砂質。上層には未風化小〜中亜円礫あり。	中央部に貼床。	東カマド。煙道内に巨礫あり。	9世紀中葉		41	3
SI78	M−15・16	V層上面で確認。SI77を切るか？	上層を耕作により削平される。南辺付近のみ検出。	380 × 60 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積する。全般的に地山（V層）に近似する小シルト粒、カマドに起因する小焼土粒、小〜中亜円礫を含む。	地山（VII層）を直接床面にしている。	不明。	9世紀中葉		43	3
SI79	K−16・17	V層上面で確認。SI80との切り合い不明。	南側調査区外。	360 × 210 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、砂質で未風化亜円礫あり。地山（V層）に近似するシルト粒あり。	貼床を持ち、上面に炭化物の薄層あり。	西側の突出部が煙道になるか？	9世紀中葉		44	3

表4　竪穴住居跡観察表（3）

遺構番号	位置	重複関係	遺存状態	規模(cm)	平面形	堆積土	床	カマド	時期	備考	挿図	図版
SI80	J-16・17	V層上面で確認。SI79との切り合い不明。	果樹により攪乱を受ける。南側調査区画外。	不明	不明	概ね水平に堆積する。地山（V層）に近似する小礫砂～シルト粒含む。未風化亜円礫含む。	不明。	不明。	9世紀中葉？		44	3
SI81	H-7・8	V層上面で確認。	南側一部攪乱。東側調査区外。	450 × 140 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、全般的に砂質で未風化中～大亜円礫あり。	西辺に貼床が一部認められる。	不明。遺物の分布状態から南側と推定される。	8世紀中葉		16	3
SI82	L-1	V層上面で確認。SI84に切られる。	かなり削平される。北東半調査区外。	490 以上× 380 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積するが、判然としない。	地山（V層）を直接床面にしている。	不明。	8世紀中葉		17	4
SI83	L-2	V層上面で確認。SI84に切られる。	上面がかなり削平されている。	350 × 290	隅丸方形	概ね水平に堆積するが、判然としない。	地山（V層）を直接床面にしている。	南東隅にカマドらしき焼土の痕跡あり。	9世紀中葉から後葉		52	4
SI85	H-4・5	V層上面で確認。	東側調査区外。	430 × 370 以上	隅丸方形	概ね水平に堆積し、地山（V層）に近似する小～大シルト粒含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	北カマド。	8世紀後葉		19	4
SI86	N・O-11・12	V層上面で確認。	上面削平。	300 × 270	隅丸方形	未風化中亜円礫あり。地山（V層）に近似する砂ブロックあり。	地山（V層）を直接床面にしている。	なし。	8世紀末から9世紀前葉		27	4
SI87	N・O-3・4	V層上面で確認。	一部重機で破壊。	390 × 380 以上	隅丸方形	礫層（区層）を掘り込んでいる。	なし。		9世紀中葉		46	4
SI89a	N・O-1	V層上面で確認。	かなり撹乱される。北側調査区外。	450 以上× 330 以上	隅丸方形	地山（V層）に近似する小シルト粒点～雲状に含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	不明。	9世紀後葉		47	4
SI89b	O-1・2	V層上面で確認。SI89aに切られる。	かなり撹乱される。	510 以上× 290 以上	隅丸方形	地山（V層）に近似する小シルト粒点～雲状に含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	東カマド。攪乱により構造は不明。	9世紀中葉		47	4
SI89c	M・N・O-1・2	V層上面で確認。SI89a・bを切る。	かなり撹乱される。	470 × 380	隅丸方形	地山（V層）に近似する小シルト粒点～雲状に含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	不明。	9世紀後葉		47	4
SI89d	M-2	V層上面で確認。SI89 cとの切り合いは不明。	かなり撹乱される。南側調査区外。	440 以上× 430	隅丸方形	地山（V層）に近似する小～中シルト粒点～雲状に含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	不明。	9世紀代		47	4
SI91a	N・O-14・15	V層上面で確認。SI91bを切る。	遺存状態悪い。	310 × 260	隅丸方形	全般的に砂質を帯びる。未風化小亜円礫含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	なし。	9世紀後葉		53	4
SI91b	N・O-14	V層上面で確認。SI91aに切られる。	遺存状態悪い。東側調査区外。	340 以上× 340	隅丸方形	全般的に砂質を帯びる。未風化小亜円礫含む。	地山（V層）を直接床面にしている。	不明。	9世紀後葉		53	4